

シ ラ バ ス 集

2 0 2 5 年度

大阪保育福祉専門学校

〈注意〉

1. ここに記されている授業計画(シラバス)は、2025 年 4 月 1 日時点での「予定」です。
授業の展開上またはその他の事情により変更される場合があります。
2. 各科目の授業は、授業計画(シラバス)として記載されている以外にも行われる場合があります。
3. 開講期の変更の可能性があります。時間割で確認して下さい。

目 次

保育原理	1
児童・家庭福祉	2
社会福祉	3
社会的養護Ⅰ	4
保育者論	5
教育原理	6
ソーシャルワークⅠ（子ども家庭支援論）	7
心理学	8
子ども家庭支援の心理学	9
子どもの理解と援助	10
子どもの保健	11
子どもの食と栄養Ⅰ	12
子どもの食と栄養Ⅱ	13
保育実習準備Ⅰ（ソーシャルワーク演習Ⅰ）	14
保育内容総論	15
保育内容 「健康」	16
保育内容 「人間関係」	17
保育内容 「言葉」	18
保育内容 「表現Ⅰ」	19
保育内容 「表現Ⅱ」	20
保育内容総合演習Ⅰ	21
音楽	22
器楽Ⅰ・器楽Ⅱ	23
乳児保育Ⅰ	24
社会的養護Ⅱ	25
子育て支援	26
保育の計画と評価	27
保育内容「環境」	28
保育内容総合演習Ⅱ	29
乳児保育Ⅱ（ソーシャルワーク 演習Ⅱ）	30
子どもの健康と安全	31
障害児保育Ⅰ	32
障害児保育Ⅱ（ソーシャルワーク演習Ⅲ）	33
ハートグローバルⅠ・Ⅱ	34
キリスト教保育	35
基礎情報学b	36

保育実習ⅠA（ソーシャルワーク実習Ⅰ）	・	
保育実習指導ⅠA（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ）	・ ・ ・ ・ ・	37
保育実習ⅠB・保育実習指導ⅠB	・ ・ ・ ・ ・	38
保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	39
保育実習準備Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	40
保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲa		
〈こども保育コース・こどもプロコース〉	・ ・ ・ ・ ・	41
保育実習Ⅲ・保育実習指導Ⅲb（ソーシャルワーク実習Ⅱ・		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ）〈こども福祉コース〉	・ ・ ・ ・ ・	42
保育実践演習	・ ・ ・ ・ ・	43
保健体育・レクリエーションⅠ	・ ・ ・ ・ ・	44
保健体育・レクリエーションⅡ	・ ・ ・ ・ ・	45
キリスト教教育Ⅰ・Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	46
基礎演習Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	47
人権講座Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	48
基礎演習Ⅱ〈こども保育コース〉	・ ・ ・ ・ ・	49
基礎演習Ⅱ〈こどもプロコース・こども福祉コース〉	・ ・ ・ ・ ・	50
権利擁護を支える法制度	・ ・ ・ ・ ・	51
刑事司法と福祉	・ ・ ・ ・ ・	52
英会話	・ ・ ・ ・ ・	53
ガイドヘルパー(知的) 資格取得講座	・ ・ ・ ・ ・	54
重度訪問介護従業者資格取得講座	・ ・ ・ ・ ・	55
ソーシャルワークⅡ	・ ・ ・ ・ ・	56
ソーシャルワーク演習Ⅳ〈福祉コース〉	・ ・ ・ ・ ・	57
医学一般	・ ・ ・ ・ ・	58
社会学	・ ・ ・ ・ ・	59
社会調査の基礎	・ ・ ・ ・ ・	60
地域福祉の理論と方法	・ ・ ・ ・ ・	61
福祉サービスの組織と経営	・ ・ ・ ・ ・	62
社会保障	・ ・ ・ ・ ・	63
高齢者福祉	・ ・ ・ ・ ・	64
障害者福祉	・ ・ ・ ・ ・	65
貧困に対する支援	・ ・ ・ ・ ・	66
保健医療と福祉	・ ・ ・ ・ ・	67
ソーシャルワーク実習Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	68
基礎情報学 a	・ ・ ・ ・ ・	69
幼児教育実習指導Ⅰ・幼児教育実習Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	70
幼児教育実習指導Ⅱ・幼児教育実習Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	71

授業概要

科目名 保育原理			形式 講義	担当者名 安原 千香子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 人間とは何か、子どもとは何かを考え、乳幼児期の環境のあり方の重要性と共に、現実の子どもの姿と取り巻く環境について知識と現状を学ぶ。それを踏まえた上で保育の意義と目的を考え、自分なりの保育観を養い、保育を創り出していくための基礎を培い後期の「保育者論」に繋ぐ。					
授業全体の内容の概要 ① 子ども観や子どもの権利の変遷を踏まえて、乳幼児期の環境のあり方について考える。 ② 子どもを取り巻く環境と子育て環境の現状、現在の保育制度や法令について学ぶ。 ③ 現代の子育て環境、保育体系の現状を踏まえて、保育のあり方について考える。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どものあるべき姿について歴史を踏まえ理解し、現代の子どもを取り巻く環境に関する基礎的知識を得る。現代における保育の意義・保育施設の役割についての基本を理解する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション～保育を学ぶに当たって/子ども理解と保育観の構築に向けて *グループディスカッション(GD)①				
2	子どもを取り巻く環境について ①歴史の変遷/子ども観の移り変わり *GD②				
3	子どもを取り巻く環境について ②歴史の変遷/子どもの権利の移り変わり *GD③				
4	子どもを取り巻く環境について ③歴史の変遷/家族環境と子育ての移り変わり				
5	子どもを取り巻く環境について ④現代社会における子育て				
6	保育とは/理念と概念、目的 *GD④				
7	保育施設の制度と役割 ①歴史と現状、保育の変遷と保育施設 *GD⑤				
8	保育施設の制度と役割 ②制度的理解/子ども子育て支援制度、保育の実施体系				
9	保育施設の制度と役割 ③子育て支援 *小テスト				
10	乳幼児の発達と保育 ①発達を学ぶための基本的理論（エリクソン・ピアジェ等）				
11	保育所保育指針等における保育 ①保育所保育指針等とは *GD⑥				
12	保育所保育指針等における保育 ②保育の基本原則、目的、内容 *GD⑦				
13	保育所保育指針等における保育 ③保育の方法 *レポート課題				
14	保育所保育指針等における保育 ④保育の実践にあたって				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 柏原栄子・渡辺のゆり/編「新現代保育原理」建帛社 「平成 29 年告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」			単位認定の方法及び基準 最終試験と平常点 （小テスト・レポート・授業に取り組む姿勢など）		

【実務経験】

公立幼稚園勤務（6 年） 児童相談研究所勤務（4 年）

幼稚園で 3～5 歳児の担任をした経験から、子どもの発達について理論と実践を交えて授業を展開する保育の課程や計画と指導について、事例を踏まえて説明する。

授業概要

科目名 児童・家庭福祉			形式 講義	担当者名 植田 彌生	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 児童・家庭福祉に関する基礎知識の修得。 保育実習を履修する上で必要な基礎知識の修得。					
授業全体の内容の概要 ① 児童・家庭福祉の歴史的変遷 ② 児童・家庭福祉の法制度・サービス ③ 児童・家庭福祉サービスの実施体系					
授業終了時の達成課題（到達目標） ① 児童・家庭福祉の歴史的な流れについて理解し、説明することができる。 ② 児童・家庭福祉の基本的な法制度・サービス及びその実施体系について理解し、説明することができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション／社会福祉・児童福祉とは何か				
2	現代社会と子ども家庭福祉① ■よくわかる子ども家庭福祉 P2～9				
3	現代社会と子ども家庭福祉② //				
4	児童・家庭福祉の歩み①（明治～戦前の歴史概要の振り返り） ■プリント				
5	児童・家庭福祉の歩み②（明治～戦前） ■よくわかる子ども家庭福祉 P52～57				
6	児童・家庭福祉の歩み③（戦前～戦後） ■よくわかる子ども家庭福祉 P58～61				
7	児童・家庭福祉の歩み④（戦後の歴史概要の振り返り） ■プリント ※小テスト				
8	児童・家庭福祉を支える法制度①憲法と福祉六法 ■プリント				
9	児童・家庭福祉を支える法制度②児童福祉法他 ■よくわかる子ども家庭福祉 P70～81				
10	児童・家庭福祉を支える法制度③ //				
11	児童・家庭福祉行政の仕組み国と地方① ■よくわかる子ども家庭福祉 P82～83, 90～97				
12	児童・家庭福祉行政の仕組み国と地方② //				
13	児童・家庭福祉サービスの利用システム ■プリント				
14	まとめ				
15	まとめ②				
使用テキスト・参考文献 山縣他編『よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房『福祉小六法』 みらい※その他福祉系科目において使用			単位認定の方法及び基準 1 / 3 以上の欠席は単位取得無資格とする。 評価は、筆記試験および受講態度（居眠・騒乱等による減点）に基づいて決定する。		

授業概要

科目名 社 会 福 祉			形式 講義	担当者名 潮谷 光人	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 社会福祉をめぐる思想、歴史、制度、人材等について、基礎的な知識を身につけるとともに、社会福祉がこれまでどのような機能と役割を担ってきたのか、課題はなにか、差別や人権侵害、貧困問題に市民や社会福祉実践者たちがどう立ち向かってきたのか、などを理解する。また、積極的な学生の自己学習や様々な意見交換を通して、自分なりの社会福祉への関心、問題意識を醸成していくことを大事にしていきたい。					
授業全体の内容の概要 社会福祉全体の法制度について理解をするが、特に子ども家庭福祉の分野については詳細な理解を求める。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ① 社会福祉の基本的な法制度について理解し、説明することができる。 ② 社会福祉の歴史的な流れについて理解し、説明することができる。 ③ 社会福祉を取り巻く現状や課題について理解し、説明することができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	社会福祉の基本的考え方				
2	社会福祉の歴史的展開Ⅰ～戦後の救貧対策～				
3	社会福祉の歴史的展開Ⅱ～経済的発展を背景とした福祉国家への歩み～				
4	社会福祉の歴史的展開Ⅲ～福祉ミックス型社会への歩みと社会福祉基礎構造改革				
5	社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 子ども家庭福祉① 社会的養護における支援				
6	社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 子ども家庭福祉② 障がい児への支援				
7	社会福祉制度の基本的理解Ⅰ 子ども家庭福祉③ 子育て支援				
8	社会福祉制度の基本的理解Ⅱ 障がい者福祉① 障がい者総合支援法				
9	社会福祉制度の基本的理解Ⅱ 障がい者福祉② 障がい者権利条約				
10	社会福祉制度の基本的理解Ⅲ 高齢者福祉① 高齢社会と介護保険法				
11	社会福祉制度の基本的理解Ⅲ 高齢者福祉② 地域包括ケアシステム				
12	社会福祉制度の基本的理解Ⅳ 社会保障① 社会保険制度				
13	社会福祉制度の基本的理解Ⅳ 社会保障② 公的扶助				
14	社会福祉の課題と今後の方向性				
15	ふりかえりとまとめ				
使用テキスト・参考文献 「社会福祉」 青踏社 新川泰弘			単位認定の方法及び基準 小テスト（20％）試験（60％）授業課題（20％）その他、平常点、授業内での発言、提出物なども成績に反映する。		

授業概要

科目名			形式	担当者名	
社会的養護 I			講義	幸嶋 成幸	
回数	時間数	単位数	開講学年	期別	必修・選択
15 回	30 時間	2 単位	1 年	前期	必修
授業の目的・ねらい					
社会的養護の施設の原理に基づく実践の理解と、社会的養護の実践を通して、子どもの支援だけでなく親・家族への支援についても学び、子ども家庭福祉としてのソーシャルワークの視点を養う。					
授業全体の内容の概要					
社会的養護の施設の機能や役割、子ども達への支援や保育者の業務と果たすべき役割について理解をできるようにする。そして保育者としての児童観や子育て観を養う。					
授業終了時の達成課題（到達目標）					
保育者として社会的養護の理解と養護（子育て）における子ども、親・家族への支援について修得し実践することができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念				
2	社会的養護の歴史的変遷				
3	子どもの人権擁護と社会的養護				
4	社会的養護の基本原則				
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務				
6	社会的養護の制度と法体系				
7	社会的養護のしくみと実施体系				
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク				
9	社会的養護の対象と支援のあり方				
10	家庭養護と施設養護				
11	社会的養護にかかわる専門職				
12	社会的養護に関する社会的状況				
13	施設等の運営管理の現状と課題				
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題				
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題				
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準		
新基本保育シリーズ 6 社会的養護 I （中央法規）			テストの評価（60%） 授業への受講態度・積極的参加（20%） 小テスト・レポートの提出（20%）		

授業概要

科目名 保育者論			形式 講義	担当者名 古川 督	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育とは、保育者とは、と言った視点から理論的かつ体系的に保育について学んでいく。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体構造を把握し、今日の保育の実情と関連づけながら、保育の理論と実践の基礎作りを行う。					
授業全体の内容の概要 ① 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体構造を理解する。 ② 保育の形態や計画を理解する。③遊びの理論を学ぶ。④保育者の専門性と役割を学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ①保育の全体像を理論的に把握しながら、保育者の役割の多様性や重要性を理解する。 ②現代の保育にまつわる諸問題を保育の専門的な視点から考察する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	保育のプロセスと質の向上				
3	養護と教育の一体性				
4	生きる力の基礎を培う保育とは				
5	保育の方法と形態 （幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体構造）				
6	保育の方法と形態（方法の実際）				
7	保育の方法と形態（クラス活動の形態）				
8	乳幼児の遊び（意義・理論）				
9	乳幼児の遊び（援助）				
10	環境を通して行う保育・教育				
11	安全に関する指導とは				
12	保育者に求められる子育て支援				
13	保育の思想・手法を学ぶ 1				
14	保育の思想・手法を学ぶ 2				
15	まとめ 保育者の専門性とは				
使用テキスト・参考文献 配布資料 参考文献：古橋和夫編『教職入門』萌文書林			単位認定の方法及び基準 レポート・課題・平常点 他		

授業概要

科目名			形式	担当者名	
教育原理			講義	秋山 万知子	
回数	時間数	単位数	開講学年	期別	必修・選択
15回	30時間	2単位	2年	前期	必修
授業の目的・ねらい 「教育」という営みを、歴史、現状、制度など様々な角度から考察し、「教育とは何か」を改めて問い直していく					
授業全体の内容の概要 教育とは何か、学校とは何かを多角的にとらえ、教育を受けてきた立場、教育する立場の両面から理解を深めていく。グループワーク、調べ学習などを取り入れ、主体的な取り組みを重視する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育者として子どもに向き合う上で、幼児期の教育のみならず、人間の生涯にわたるすべての教育の営みにまで関心を持ち、理解を深めることができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	「教育とはどのような営みか」「人間とはどのような存在か」を改めて考察する				
3	今日の教育の中心ともいえる学校教育について考える（学校の役割など）				
4	今日の学校教育の抱える課題についての調べ学習をする				
5	〃				
6	〃				
7	学校の歴史、子育ての変遷(古代・近世・近代・現代)について学ぶ				
8	〃				
9	憲法・教育基本法・子どもの権利条約から教育の本質を考える				
10	〃				
11	〃				
2	教師の資質や役割について学ぶ				
13	社会教育と生涯教育について理解し、その必要性和今後の展望を考える				
14	激動する社会のなかで、子どもの直面する環境問題に目を向け、新たな教育の在り方について考える。				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 『やさしい教育原理』有斐閣アルマ			単位認定の方法及び基準 レポート・定期試験・授業態度		

授業概要

科目名 ソーシャルワーク I			形式 講義	担当者名 小川 和代	
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	開講学年 2年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 社会の急激な変化に伴い、保護者や子どもに対する支援、援助の必要性が高まっている。保育士は子ども家庭福祉の専門職であることから、子どもの育ちを支える基盤の一つである家庭について理解し、様々な課題を抱えた家庭に対する寄り添い方と関係機関との連携の在り方について必要な知識を修得する。					
授業全体の内容の概要 地域社会の変化の中で起きている子育て、子育てを取り巻く問題について、事例を中心に学習する。 現在、日本で行われている子育て支援とその内容を知る。 家庭支援の目指す方向性と、ソーシャルワークの技法を学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 現代社会と家庭の関係を理解し、家庭支援の在り方の大切さを認識する。 子どもの育ちを中心に据えた家庭の福祉をはかるために、具体的な支援の方法を身につける。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	現代の家族・家庭を取りまく現状				
3	子育て家庭を取り巻く社会環境についてその現状と課題				
4	子ども家庭福祉の歩みと家庭支援の基本				
5	子育て家庭支援施策の現状と展開				
6	子育て家庭支援施策のための社会資源				
7	ソーシャルワーク・、子育てネットワーク構築のための関係機関とその連携				
8	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策				
9	子育て支援・保育政策とその課題				
10	地域の子育て支援の展開・制度と支援者の役割				
11	保護者とのコミュニケーションの取り方(事例を通して)				
12	特別なニーズのある子どもへの家庭支援の必要性と支援の実際				
13	子どもの人権と権利条約				
14	子どもの虐待とDVに対する支援の在り方				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 「基礎から学ぶ子育て支援の実際」〔改訂版〕 太田敬子・檜垣昌也編著 大学図書出版			単位認定の方法及び基準 授業態度、演習課題、最終試験から総合的に判断する。		

授業概要

科目名 心理学			形式 講義	担当者名 高岡 忍	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 子どもの発達を理解し、保育実践に関わる心理学の知識を習得する。。					
授業全体の内容の概要 こどもの発達を捉え、保育現場で活かせる保育心理学の理論を通しての保育実践の方法を学ぶ					
授業終了時の達成課題（到達目標） 発達心理学の基礎的な知識を習得し、保育の現場での今後の自身の心の問題等に対応する力を身に付ける。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	保育心理学とは何か及び子どもの発達を理解することの意義				
2	子どもの発達と環境				
3	発達に関する理論				
4	子ども観と保育観				
5	子どもの発達過程 1 社会情動的発達				
6	子どもの発達過程 2 身体的機能と運動的機能の発達				
7	子どもの発達過程 3 認知の発達①…認知とは				
8	子どもの発達過程 4 認知の発達②…ピアジェの認知発達理論他				
9	子どもの発達過程 5 言語の発達とコミュニケーション①				
10	子どもの発達過程 6 言語活動の発達				
11	発達に偏りのある子どもの理解と支援				
12	乳幼児期の学びに関わる理論				
13	乳幼児期の学びの特性				
14	乳幼児期の学びを支える保育				
15	まとめと振り返り				
よくわかる保育エクササイズ 第2版 保育の心理学演習ブック ミネルヴァ書房 松本峰雄監修			単位認定の方法及び基準 平常点・提出物 40% テスト 60%		

授業概要

科目名 子ども家庭支援の心理学			形式 講義	担当者名 中島 弘美	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 幼児期・児童期の子ども及び家族理解と支援のあり方について学ぶ					
授業全体の内容の概要 子どもとその家族への理解と支援のあり方について概説する					
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもとその家族への理解と支援のあり方についての知識の習得					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	保育における子ども理解				
3	生涯発達				
4	特別な配慮を要する子どもの理解 (1)				
5	特別な配慮を要する子どもの理解 (2)				
6	特別な配慮を要する子どもの理解 (3)				
7	家族理解 (1)				
8	家族理解 (2)				
9	カウンセリングにおける技法 (1)				
10	カウンセリングにおける技法 (2)				
11	カウンセリングにおける技法 (3)				
12	特別な配慮を要する子どもと家族の支援 (1)				
13	特別な配慮を要する子どもと家族の支援 (2)				
14	支援に必要な関係機関との連携				
15	授業全体のまとめ				
使用テキスト・参考文献 プリント随時配布 参考資料随時紹介			単位認定の方法及び基準 毎回のふりかえりシート記入や講義中の演習への取り組み等の授業態度 レポート課題への取り組みを総合的に評価		

授業概要

科目名 子どもの理解と援助			形式 演習	担当者名 城野敦子・坂口まゆり	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育者として基本となる、一人ひとりの子どもの内面とその発達をふまえ、子どもを取り巻く人的環境・物的環境について理解する。それぞれの子どもや保護者等に応じた援助を適切におこなえるよう、その観察・実践・記録の方法について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 様々な状況にある子どもや保護者支援を行う際に必要な心理的援助の考え方、方法、援助技術について、様々な角度から考えていく。また、「自分を知る」ことも大切にし、授業の中でディスカッションやVTRを通して自分自身を振り返っていく。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ・保育者としての視野を広げ、子どもや保護者の背景を理解しようとする。 ・カウンセリングマインドを培う。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	保育における「子ども理解」とは				
3	子どもの行為の「意味」を探る①				
4	子どもの行為の「意味」を探る②				
5	子どもを取り巻く環境				
6	保育における理解と援助				
7	「子ども理解」を深める観察と記録				
8	障がいのある子どもと多様性の理解				
9	一人ひとりの子どもの理解と援助				
10	子ども理解とカウンセリングマインド				
11	子ども理解と保育現場でのカウンセリング				
12	子育て支援・家庭支援				
13	園内研修と保育カンファレンス				
14	子ども理解を深めるための組織づくり				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 適宜プリントを配布			単位認定の方法及び基準 受講態度・提出物・小テストにより 総合的に評価する		

授業概要

科目名 子どもの保健			形式 講義	担当者名 釜島 美智代	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 子どもの発育・発達について理解する 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する 子どもの病気の予防と適切な対応について理解する					
授業全体の内容の概要 教科書・配布資料をもとに、グループワーク、個人ワークを行いワークから生まれた問題意識や疑問をもとにテーマに関する解説を行う。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもの身体発育・生理的な発達の道筋を説明できる 子どもの健康状態を把握する方法について説明できる。 子どもに多い疾病の主なものについてその特徴を説明できる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	子どもの保健とは。母子保健サービス				
2	体のつくりと身体発育				
3	身体発育の評価				
4	生理機能とは：生理機能の発達と関連する症状、病気：体温調節機能				
5	生理機能の発達と関連する症状、病気：呼吸器・循環器				
6	生理機能の発達と関連する症状、病気：消化器				
7	生理機能の発達と関連する症状、病気：泌尿器・生殖器				
8	生理機能の発達と関連する症状、病気：感覚器				
9	生理機能の発達と関連する症状、病気：免疫機能				
10	感染症とは。感染症概論				
11	子どものかかりやすい感染症①				
12	子どものかかりやすい感染症②				
13	感染症の予防と対策：予防接種				
14	感染症の予防と対策：学校感染症				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 テキスト これだけはおさえたい！ 保育者のための子どもの保健 改訂版 創成社			単位認定の方法及び基準 授業での小レポート・ワークシート（40%） 筆記試験（60%）の合計で評価する。		

授業概要

科目名 子どもの食と栄養 I			形式 演習	担当者名 井上 弥生	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 各期における食生活の意義や栄養に関する基本的知識の習得を目的とする					
授業全体の内容の概要 乳幼児期の各年齢での栄養摂取の特徴について学び、背景や考え方を理解したうえで、さらに現在の小児における食生活の現状を課題につて自ら考えられるよう、発展的な内容も講義する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ・子どもの発達に合わせた栄養の特徴や重要性を理解出来る。 ・子どもの食生活における課題を把握し、解決策を提案する事ができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション（授業の進め方等）健康の定義 乳幼児の身体発育				
2	子どもの食生活をめぐる現状について 成人期とは異なる小児期の栄養と食生活				
3	栄養に関する基礎知識 ①炭水化物				
4	栄養に関する基礎知識 ②炭水化物				
5	栄養に関する基礎知識 ③脂質				
6	栄養に関する基礎知識 ④脂質				
7	栄養に関する基礎知識 ⑤たんぱく質				
8	栄養に関する基礎知識 ⑥ビタミン・ミネラル				
9	栄養素の消化と吸収 消化の仕組みについて				
10	栄養素の消化と吸収 ①糖質 脂質				
11	栄養素の消化と吸収 ③たんぱく質				
12	子どもの発達と食生活①（妊娠・授乳期、乳児期）				
13	子どもの発達と食生活②（幼児期）				
14	子どもの発達と食生活③（学童期・思春期、生涯発達と食生活）				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 こどもの食と栄養演習ブック（ミネルヴァ書房）			単位認定の方法及び基準 授業内容の理解度を試験と小テストの取り組みにより評価する		

授業概要

科目名 子どもの食と栄養Ⅱ			形式 演習	担当者名 井上 弥生	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい ・各期にふさわしい食事に関する基礎知識の習得を目的とする ・食育の重要性について正しく理解する事を目的とする					
授業全体の内容の概要 I で学んだ内容を踏まえ、各期にふさわしい食事内容、食事指導方法を習得し、実践する授業である。自らが実践することによって子どもの食育の重要性についてさらに理解を深められるよう発展的内容も講義に入れている。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ・各期にふさわしい栄養特性について理解できる ・正しい衛生観念をもって食事作りを実施することができる ・子どもの食事計画の策定と実践するための知識を習得できる					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション（実習の目的 方法 レポートの書き方）日本独自の献立、行事食調理法を理解する				
2	食育の基本的理念と内容				
3	家庭や児童福祉施設における食事と栄養				
4	食事摂取基準と調理・調乳の基本、調乳実習オリエンテーション				
5	実習 1 調乳①（通常ミルク）				
6	実習 2 調乳②（フォローアップミルク）				
7	乳幼児の食生活のまとめ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養				
8	実習 3 調乳③（特殊ミルク）				
9	実習 4 離乳食①（5～6 か月 7～8 か月頃）				
10	実習 5 離乳食②（9～11 か月 12～18 か月頃）				
11	食物アレルギー				
12	実習 6 幼児のおやつ				
13	実習 7 幼児のおやつ（アレルギー対応）				
14	まとめ 調乳実技テスト				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 I で使用した子どもの食と栄養演習ブックを引き続き使用する			単位認定の方法及び基準 授業内容の理解度を小テストと試験及び実習レポートにより評価する		

授業概要

科目名 保育実習準備Ⅰ（ソーシャルワーク演習Ⅰ）			形式 演習	担当者名 坂口まゆり・植田彌生 小川和代・城野敦子 内海裕美・中村天	
回数 30回	時間数 60時間	単位数 4単位	開講学年 1年	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育実習ⅠＡ・保育実習ⅠＢに安心して取り組めるよう、実習生としての基本的態度、心構えを身につけること、また実習に必要な基礎知識・技術を習得することを目的とする。					
授業全体の内容の概要 ・子どもや職員との関わり方、仕事の内容を学ぶための体験学習。 ・レポートや実習記録の書き方を学ぶ。 ・保育教材演習。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育実習ⅠＡ・保育実習ⅠＢに安心して取り組めるよう、実習生としての基本的態度、心構えを身につけること、また実習に必要な基礎知識・技術を習得する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	ⅠＡ（前期オリエンテーション）		16	ⅠＡ（後期オリエンテーション）	
2	ⅠＡ（養護：ビデオ）		17	ⅠＡ（種別勉強会）	
3	ⅠＡ（養護：見学前レポートの書き方）		18	ⅠＢ（後期オリエンテーション）	
4	ⅠＡ（養護：見学後レポート書き方）		19	ⅠＢ（保育施設見学）	
5	ⅠＡ（知的：ビデオ）		20	ⅠＢ（保育施設見学）	
6	ⅠＡ（知的：講義）		21	ⅠＢ（見学の振り返り）	
7	ⅠＡ（知的：ビデオ・講義）		22	ⅠＢ（記録の書き方①）	
8	ⅠＡ（知的：講義）		23	ⅠＢ（記録の書き方②）	
9	ⅠＡ（養護：見学後レポート指導）		24	ⅠＢ（保育体験①）	
10	ⅠＡ（重症児：ビデオ・講義）		25	ⅠＢ（保育体験②）	
11	ⅠＡ（知的：見学後レポート指導）		26	ⅠＢ（保育体験振り返り①）	
12	ⅠＢ（前期オリエンテーション）		27	ⅠＢ（保育体験振り返り②）	
13	ⅠＢ（名札の製作）		28	ⅠＢ（保育教材作製）	
14	ⅠＢ（保育教材製作）		29	ⅠＢ（保育教材作製）	
15	ⅠＢ（保育教材製作）		30	ⅠＢ（実習前レポート）	
使用テキスト・参考文献 学校作成の実習ハンドブック・ ⅠＢ後期は、保育実習ⅠＢのテキスト類。 その他、随時プリントを配布する。			単位認定の方法及び基準 受講態度・製作物やレポート等の提出物、その他保育実習ⅠＡ・保育実習ⅠＢの評価と合わせて総合的に評価する。		

授業概要

科目名			形式		担当者名	
保育内容総論			演習		古川 督	
回数	時間数	単位数	開講学年	期別	必修・選択	
8 回	15 時間	1 単位	1 年	後期	必修	
授業の目的・ねらい						
保育内容各論の内容について、子どもの生活と遊びの中で総合的にとらえる視点をもつ。 保育者の役割と援助等、保育者の専門性を理解する。						
授業全体の内容の概要						
保育所保育指針における保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連づけて保育内容を学ぶ。 子どもの生活全体を通して養護と教育が一体的に展開することを、具体的な実践事例につなげて学ぶ。						
授業終了時の達成課題（到達目標）						
保育とはどのようなものかを理解し、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつようになる。保育者の役割と援助、保育者の専門性を理解する。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	イントロダクション ～保育とは何か？教育とは何か？～					
2	育てていきたいこと・経験してほしいことの全体的な関連					
3	保育の基盤としての「養護」とは？					
4	保育展開（１）～保育の方法～					
5	保育展開（２）～保育の環境～					
6	保育展開（３）～保育の内容～					
7	保育展開（４）～保育の計画と記録～					
8	保幼小の連携と接続・まとめ					
使用テキスト			単位認定の方法及び基準			
適宜資料配布			演習、課題、受講態度により総合的に評価する			

授業概要

科目名 保育内容「健康」			形式 演習	担当者名 中村 天	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 「健康」のねらい及び内容を理解し、子どもの健康な心と体についての知識を習得する。 子どもが健康で安全な生活をつくり出す力を養うための保育者の援助について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 乳幼児期における子どもの心と体の発達について知る。 子どもの生きる力を育むための保育者の役割について考える。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 生きる力を育むための保育者の支援の仕方や援助のあり方について学び、自らの実践につなげることができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 第 1 章 保育内容 領域「健康」の意義				
2	第 2 章 乳幼児期の発育・発達と心身の健康①				
3	第 2 章 乳幼児期の発育・発達と心身の健康②				
4	第 3 章 乳幼児期の基本的生活習慣				
5	第 4 章 乳幼児期の運動発達①				
6	第 4 章 乳幼児期の運動発達②				
7	第 5 章 乳幼児期の安全				
8	第 6 章 基本的生活習慣にかかわる指導				
9	第 7 章 食育にかかわる指導				
10	第 8 章 運動遊びにかかわる指導				
11	第 9 章 安全教育にかかわる指導				
12	第 10 章 領域「健康」の指導における保育者の役割				
13	第 11 章 指導案、教材研究、模擬保育の取扱い 指導案の作成				
14	模擬保育の実施				
15	まとめ				
○使用テキスト 「保育内容「健康」 幼児期の教育と小学校教育をつなぐ」 ○参考文献 「身体活動と体力トレーニング」 「姿勢制御の神経生理機構」 「からだの発達と加齢の科学」			単位認定の方法及び基準 授業態度・演習への取り組み・提出物・課題レポートにより総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保育内容「人間関係」			形式 演習		担当者名 古川 督	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	開講学年 1年	期別 後期	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、子どもの発達と人とかかわる力を身につける過程を学び、子どもが人とかかわる力を養うための保育者の役割について学ぶ。						
授業全体の内容の概要 領域のねらいと内容を学ぶと共に、人とかかわりを身につける過程・発達を学ぶ。 具体的な保育実践事例により理解を深める。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 領域「人間関係」のねらいと内容の理解を深め、子どもの発達と人とかかわる力を身につける過程を知り、保育者の役割を習得する。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	領域「人間関係」の社会的背景と諸問題					
2	保育の基本と領域「人間関係」のしくみ ～幼稚園教育要領を中心に～					
3	遊びの中で育つ人とかかわり					
4	人とかかわりを育てる保育者の役割					
5	事例を通して学ぶ① ～協同的な学びの基礎より～					
6	事例を通して学ぶ② ～ロールプレイの活用～					
7	人とかかわりが難しい子どもの支援					
8	まとめ 学びの振り返り					
○使用テキスト ・「幼児と人間関係 ～保育者をめざす～」 ○参考文献 ・「保育所保育指針解説」 ・「幼稚園教育要領解説」 ・「認定こども園教育・保育要領解説」			単位認定の方法及び基準 演習、課題、受講態度により総合的に評価する			

授業概要

科目名 保育内容「言葉」			形式 演習	担当者名 山口 美帆	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 乳幼児期における言葉の発達過程を学ぶ。 言葉の発達を促すために、保育者としてふさわしい援助や役割について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 乳幼児期における言葉の発達のみちすじを学ぶ。 豊かな言葉を受け止め、育てるための援助や役割について学ぶ。 児童文化財によって子どもが持つ言葉の力を育てることを実践的に学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 乳幼児期における言葉の発達を促すためにふさわしい保育環境や保育者の援助・役割を知り、保育のなかで実践していく力を習得する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 科目と領域「言葉」の理解 授業の進め方、演習内容、提出課題について（読書カード）				
2	保育の基本と領域「言葉」				
3	乳幼児期の言葉の発達 1 一人の生活と言葉―				
4	乳幼児期の言葉の発達 2 一人乳児期の言葉の発達 1―				
5	乳幼児期の言葉の発達 3 一人乳児期の言葉の発達 2―				
6	乳幼児期の言葉の発達 4 一人幼児期の言葉の発達―				
7	言葉と保育内容 一人配慮を必要とする子どもへの支援―				
8	言葉と保育の実践 1 一人文化財（絵本）について―				
9	言葉と保育の実践 2 一人文化財（絵本・紙芝居）について―				
10	保育内容「言葉」の変遷 一人保育所保育指針・幼稚園教育要領における変遷をみる―				
11	ことばを育てる活動―年間保育指導計画案、保育指導案作成―①				
12	ことばを育てる活動―実践練習―②				
13	ことばを育てる活動―実践発表―③				
14	ことばを育てる活動―振り返り、評価、反省―④				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 ・新保育内容シリーズ『子どもと言葉』 萌文書林 ・『保育所保育指針』 厚生労働省、『幼稚園教育要領』 文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育 要領』 内閣府・厚生労働省・文部科学省			単位認定の方法及び基準 レポート等の提出課題、演習課題、授業への 取り組み、最終試験により総合的に評価する。		

実務経験】

私立保育園勤務（16 年）

保育勤務の経験から、子どもたちの言葉の発達を順に自身が保育現場で見てきた事例を踏まえて授業を進める。また自身の保育経験から、子どもは、一人ひとり個性もあり、同じように発達するわけではない事も踏まえ、偏った見方をせず、子どもと向き合う事ができるような言葉がけについて、事例をあげて説明する。

授業概要

科目名 保育内容「表現Ⅰ」			形式 演 習		担当者名 城野 敦子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 子どもが、自分なりに豊かな表現活動を行うために必要な援助方法や環境構成について学ぶ。 保育・幼児教育の指導者として自身の感性を磨き表現力を高める事の重要性について知る。						
授業全体の内容の概要 ・子どもの発達やとりまく環境も視野に入れ、子どもの音楽表現活動について学ぶ。 ・子どもの感性を育むために、保育・幼児教育の指導者に必要とされる役割について学ぶ。 ・音に親しみ、音楽表現活動の楽しさを体感する。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもの表現活動について学び、保育・幼児教育の指導者としての役割を理解する。 演習活動を通して音楽表現の経験値を増やし感性を豊かにする。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション 表現とは					
2	領域「表現」と音楽表現					
3	音楽の力					
4	ユニバーサルデザインの音楽表現					
5	音楽表現とコミュニケーション					
6	リズムの力 / 即興リズムあそび / リトミック					
7	音楽表現と豊かなこころの発達					
8	ことば表現とコミュニケーションの発達					
9	音楽表現と動きの発達					
10	音楽表現と認知や社会性の発達					
11	楽器あそび①楽器を知る					
12	楽器あそび②リズム打ち					
13	歌う・演奏する					
14	クリエイティブ音楽ムーブメント					
15	まとめ					
使用テキスト・参考文献 『一人一人を大切にする ユニバーサルデザインの音楽表現』 萌文書林			単位認定の方法及び基準 平常点と試験を総合的に評価 (受講態度、提出物、演習、試験)			

【実務経験】

私立保育園勤務（8年） 公立養護学校勤務（介助員3年）

養護学校や保育園において、授業補助保育を行う。障がいをもつ児童・生徒や乳幼児が実際に興味を持っていた歌や遊びを取り入れた実践演習をし、指導のポイントを伝える。

授業概要

科目名 総合こども学科 保育内容「表現Ⅱ」			形式 演習	担当者名 三浦 直美	
回数 15回	時間数 30時間	単位数 2単位	開講学年 1年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい ・子どもの表現活動について学び、発達段階における造形表現の特徴について理解する。 ・豊かな創造性や表現活動を育むために、保育者として必要な知識・技術・援助について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 ・子どもの造形表現や発達の特徴について理解し、より良い活動や援助方法について学ぶ。 ・子どもの身近にある様々な素材に注目し、創意工夫する面白さや自己表現する楽しさを味わう。 ・保育の実践、展開に必要な基礎的な知識・技術を養う。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもの造形表現について学び、豊かな感性を育むために必要となる保育者の役割を理解する。 多様な素材を使った遊びや表現方法を学び、保育者としての感性を磨く。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	領域「表現」のねらいと内容、全体構造の理解				
3	身近な素材と造形教材・道具の扱い方（はさみ・のり）				
4	色彩の基礎				
5	美術表現技法①				
6	美術表現技法②				
7	描画活動における発達の特徴				
8	版画あそび① 紙版画				
9	版画あそび② スチレン版画				
10	子どもの発達と造形表現活動 [0・1・2歳]				
11	子どもの発達と造形表現活動 [3・4・5歳]				
12	生活素材・自然素材・廃材を使ったあそび				
13	季節や行事を豊かにする造形活動				
14	保育者の役割、教材研究				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 ・槇 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林			単位認定の方法及び基準 平常点と最終試験を総合的に評価 （授業への取り組み姿勢、演習課題、試験）		

【実務経験】

私立保育園勤務(1年) 私立幼稚園勤務(6年) 公立幼稚園勤務(2年)

保育現場で培った知識と経験をもとに、子どもの発達におうじてた表現活動の進め方や支援の工夫を伝えます。実際に行われていた造形活動の事例や、子どもの思いを引き出す関わり方などを紹介しながら、実践に即した内容で表現の力を育てる授業を行います。

授業概要

科目名 保育内容総合演習Ⅰ			形式 演習		担当者名 吉野綾・坂口まゆり・ 鷲岡由美	
回数 23回	時間数 45時間	単位数 3単位	開講学年 1年	期別 通年	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 自己表現の一つとして気持ちを伝える手段として文章化できるようになり、文章を書く技術を学ぶ。また、履修する保育内容の科目と連携しながら演習を行い、必要な技術や知識を身につける。様々な活動を自らが経験し楽しみ、主体的に取り組む姿勢を育てる。						
授業全体の内容の概要 前半は文章力の向上のための授業を展開する。後半は集中講義形式をとる。伝承あそびや造形あそびやリズム遊びの演習に取り組む。それぞれの演習で必要な技術や知識について学ぶ。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 様々な活動を通して技術や知識を身につける。 演習を行う中で遊びの楽しさや遊び心、感性を育み、主体的に取り組める力、保育者として必要な姿勢を身につける。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション		16	〃 ③		
2	講義（文章の基礎）		17	〃 ④		
3	講義（文章・レポートの書き方）		18	造形遊び ①		
4	課題説明		19	〃 ②		
5	演習①		20	〃 ③		
6	演習②		21	〃 ④		
7	まとめ		22	〃 ⑤		
8	伝承遊び ①		23	〃 ⑥		
9	〃 ②		24			
10	〃 ③		25			
11	〃 ④		26			
12	〃 ⑤		27			
13	〃 ⑥		28			
14	リズム遊び①		29			
15	〃 ②		30			
使用テキスト・参考文献 必要に応じて資料を配布する。			単位認定の方法及び基準 提出物、授業態度、演習への取り組み等を総合的に評価する。			

授業概要

科目名			形式	担当者名	
音楽			演習	米谷 優	
回数	時間数	単位数	開講学年	期別	必修・選択
15 回	30 時間	2 単位	1 年	後期	必修
授業の目的・ねらい					
保育、介護、福祉の現場で活かすことの出来る音楽知識の習得。 歌唱のための基礎知識、技術の修得。					
授業全体の内容の概要					
音楽理論の基礎を、練習問題を用いながら学習する。 毎回、学習した音楽理論を応用できる歌を歌う。 現場で役立つ生活の歌、季節・行事の歌、遊び歌、わらべ歌を学び、歌う。					
授業終了時の達成課題（到達目標）					
音楽の基礎知識を習得すること。 上記の様々な歌に慣れ親しみ、歌唱の技術を習得すること。 コードネームを理解し、ピアノを弾きながら歌うための知識と技術を習得すること。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	授業内容ガイダンス，／第 1 章 音，巻末問題集「音」解説，発声練習				
2	第 2 章 楽譜(1)，巻末問題集「楽譜(1)」解説				
3	第 3 章 楽譜(2)，巻末問題集「楽譜(2)」解説				
4	第 1～3 章復習の小テスト，小テスト解説，第 4 章 音程				
5	巻末問題集「音程」解説，第 5 章 楽譜(3)				
6	歌唱テストのための練習と解説，巻末問題集「楽譜(3)」解説				
7	歌唱テスト，レポート課題				
8	レポート課題解説，第 6 章 音階と調				
9	第 6 章 音階と調，巻末問題集「音階と調」解説				
10	第 7 章 和音，巻末問題集「和音」解説				
11	コードネーム，第 8 章 楽式，第 9 章 演奏				
12	伴奏付け練習，うた練習，弾き歌いテスト課題発表				
13	弾き歌いテストのための伴奏付け①，うた全体練習，ピアノ個人練習				
14	弾き歌いテストのための伴奏付け②，弾き歌いテスト①				
15	弾き歌いテスト②，まとめ				
使用テキスト・参考文献 音楽(理論)，音楽声楽教本 こどものうた 200，続こどものうた 200 (チャイルド本社)			単位認定の方法及び基準 筆記の小テスト、歌唱／弾き歌い実技テスト、 レポートの課題内容、授業態度を 総合的に評価する。		

授業概要

科目名 器楽Ⅰ・Ⅱ		形式 演習	担当者名 岡村わか子 林 道子 氷室 美果 山下 由香		
回数 22 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1・2 年	期別 通年	必修・選択 器楽Ⅰ 必修 器楽Ⅱ 選択
授業の目的・ねらい 子どもの生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための保育の展開に必要となる、音楽の基礎とピアノの演奏技術の習得及び伴奏法の向上を目指す。					
授業全体の内容の概要 グレードごとに学年末に到達したい目標を設定する。 器楽Ⅰ ピアノ初心者、ピアノ経験者それぞれの演奏技術に応じて進め、演奏の到達目標は、 ・保育や幼児教育の現場で歌われるような生活の歌を1曲弾ける ・保育や幼児教育の現場で使用されるような子どもの歌が1曲弾ける ・ピアノ教本(バイエル・ブルグミュラー・ソネチネ等)から1曲弾ける 上記の3曲を弾けることを到達目標とする。 楽曲のアレンジも可能だが、必ず各担当者の指示のもと行うこと 器楽Ⅱ ・保育や幼児教育の現場で歌われるような生活の歌を1曲弾ける ・保育や幼児教育の現場で使用されるような子どもの歌が1曲弾ける ・ピアノ教本(バイエル・ブルグミュラー・ソネチネ等)から1曲弾ける (上記3曲は器楽Ⅰで使用した曲以外でおこなう) ・保育や幼児教育の現場で歌われるような曲の弾き歌いが1曲できる 上記の4曲を弾けることを到達目標とする。 楽曲のアレンジも可能だが、必ず各担当者の指示のもと行うこと					
授業終了時の達成課題（到達目標） ピアノの演奏技術を向上させ、レパートリーを増やしながら音楽表現力を高め、また実力に応じた応用力を身に付ける。またそれによる保育の指導力を高める。					
授業の授業方法と内容 *学生の演奏技術に応じた授業形態・プログラムで進める。 器楽Ⅰは、少人数のグループレッスンで基礎的な知識と技術を学ぶ。 器楽Ⅱは、2，3人のグループで個別授業を行う。実力に合わせて簡単な和声付け・弾き歌い・初見弾きなどを実践する。 *前期・後期とも1回ずつ、各担当者の担当学生全員での器楽発表会(期日は学校暦を参照)を実施する。（前・後期とも「最終授業及び定期試験期間」週に授業は行わない。）					
使用テキスト・参考文献 『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 ドレミ楽譜出版社 『音楽 ピアノ教本』 近畿大学九州短期大学 『ピアノ曲集(piano music for children)』 本学編集 『こどものうた 200』 チャイルド本社 『続こどものうた 200』 チャイルド本社			単位認定の方法及び基準 ・評価は、努力度、授業態度や技術の向上などの項目による本校独自の評価表に基づいて行う。 ・全出席を心がけ、練習を重ねた上で授業に臨む。 ・授業には『器楽履修状況表』を携行し、練習方法や練習内容等について指導を受ける。 ・前期の学習が不十分な学生には、夏期休暇中に補講を実施する。		

授業概要

科目名 乳児保育 I			形式 講義	担当者名 内海 裕美	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷を学び役割等について理解する。 (2) 保育所、乳児院等、多様な保育の場における乳児保育の現状及び課題について理解する。 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 (4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関係機関との連携について理解する。					
授業全体の内容の概要 乳児保育が必要とされる背景を知り、乳児保育に欠かせない連携など、講義を通し学ぶ。 赤ちゃん人形を用いて乳児を保育する上で必要な技術や温かな援助を学ぶ。また、乳児の養護と教育の一体性を学びの中より感じ取る。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 乳児保育の理念と目的を理解し、乳児保育者として必要な資質、技術、知識の基礎を習得する。 乳児保育の現状、課題を知識としてもち、様々な連携や援助のあり方を理解する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	乳児保育の必要性と歴史、現状 ①				
2	乳児保育の必要性と歴史、現状 ②				
3	知っておきたい法律のいろいろ				
4	保育所保育指針とは				
5	乳児保育のポイント ①				
6	乳児保育のポイント ②				
7	乳児の発達 ①				
8	乳児の発達 ②				
9	乳児の発達 ③				
10	乳児とのふれあいの基本 ①				
11	乳児とのふれあいの基本 ②				
12	乳児保育における複数担任制と保育者同士の連携				
13	保育所の 1 日の流れ、年齢別デイリープログラム				
14	保護者との連携 保護者を支える				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 ・はじめて学ぶ乳児保育 第四版 同文書院 ・保育所保育指針 ・保育の今、これから 学研 他			単位認定の方法及び基準 テスト、提出物、受講態度などで 総合的に評価する		

【実務経験】

保育園勤務（15年） 乳児保育園勤務（1年）

保育園では特に0～2歳児の担任経験が長く、乳児保育園勤務の経験から、乳児施設での乳児の保育の様子、保護者との交流話などします。また、赤ちゃん人形でオムツ交換などの援助と留意点などを考え、また乳児の目線に立ち、関わり遊ぶために、乳児のコミュニケーションツールを伝えます。

授業概要

科目名			形式		担当者名	
社会的養護Ⅱ			演習		高山 嘉史	
回数	時間数	単位数	開講学年	期別	必修・選択	
8回	15時間	1単位	1年	前期	必修	
授業の目的・ねらい						
社会的養護Ⅰで学んだ内容を踏まえながら具体的に施設養護、家庭養護の実際の支援内容について学んでいく。社会的養護にかかる保育士としての専門的資質を養うため生活の実際やソーシャルワークの方法と技術についても理解を深める。						
授業全体の内容の概要						
グループでのワーク・発表を中心に、社会的養護の具体的な理解を深め、社会的養護Ⅰと併せて体系的に理解する。						
授業終了時の達成課題（到達目標）						
社会的養護にかかわる保育者として実習や就労に向けて実践的することができる。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	子どもの権利擁護					
2	社会的養護における子どもの理解					
3	支援内容の実際（日常生活支援・心理的支援）					
4	支援内容の実際（自立支援）					
5	家庭養護の実際					
6	アセスメントと支援計画					
7	相談援助の知識と技術					
8	社会的養護における家庭支援					
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準			
なし			テストの評価（60％）			
			授業への受講態度・積極的参加（20％）			
			小テスト・レポートの提出（20％）			

授業概要

科目名 子育て支援			形式 演習	担当者名 山崎 深	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	開講学年 1年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい なぜ今、子育て支援が求められているのか？ 子育て家庭を取り巻く環境や課題を理解し、親が主体的に子育てできるよう、寄り添える保育者としての視点を養う					
授業全体の内容の概要 子育て支援現場での対応事例を皆でながめて考えたり、フィールドワークとして地域子育て支援の現場に出向いて子育て支援の実験を体験したりするなど、実践例を通して保護者のニーズや課題を知り、より良い支援について理解する					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育士として、子育て支援に求められる視点を理解する 多様な子育て家庭や社会資源があることを知り、保育者としての幅を広げる					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	現代の子育て家庭のニーズと保育所等の果たす役割				
3	援助者の役割と基本姿勢				
4	地域子育て支援拠点における支援				
5	フィールドワーク（「ファミリーポートひらかた」「広場さぷり」「ぱんだのいえ」 現場訪問）				
6	子育て支援現場の実際（理論と実践）① 現場職員より				
7	子育て支援現場の実際（理論と実践）② 現場職員より				
8	まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準		
内容に応じて随時配布します			授業への積極的な取り組み ふりかえりシート（随時）での総合評価		

授業概要

科目名 保育の計画と評価			形式 講義	担当者名 谷 克子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい ・人格形成の基礎を築く乳幼児期に携わる保育者としての自覚と責任をもつ。 ・子どもの育ちを理解した指導計画の立案、実践、振り返り、評価のできる保育者としての資質を高める。					
授業全体の内容の概要 全体的な計画・教育課程と指導計画の関係、PDCA サイクルの理論、評価と実際を学習する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画・評価について理解する。 ・計画、実践、省察、振り返り、評価、改善の過程について全体構造を動的にとらえ理解する。 ・就学前教育の計画の作成について具体的に考え理解する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション、保育施設の理解				
2	カリキュラムとは				
3	幼児教育で育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①				
4	〃 ②				
5	教育課程、全体的な計画について				
6	教育課程、全体的な計画と指導計画のかかわり				
7	カリキュラムマネジメント、PDCA サイクル				
8	指導計画を作成する際のポイント				
9	指導計画を立ててみる①				
10	〃 ②				
11	〃 ③				
12	復習、幼稚園教育の目的と目標				
13	指導計画を立ててみる④				
14	〃 ⑤				
15	家庭・地域・小学校との連携				
使用テキスト・参考文献 ・田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに ・指定テキスト ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領			単位認定の方法及び基準 ・試験、授業への取り組み、提出物により総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保育内容「環境」			形式 演習		担当者名 吉野 綾	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 子どもをとりまく身近な環境（自然、社会、遊び、文化など）について理解するとともに、望ましい環境のありかた等、実践事例や体験的な学習手法により探究する。						
授業全体の内容の概要 身近な環境と関わることで子どもが、豊かな生き方を創造していくための保育方法や内容について学ぶ。 また講義のほかにグループワークや発表、実習等を通して体験的に学べるように演習を行う。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている保育内容「環境」のねらいを理解する。 自然体験を通して、心の安らぎや豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる保育を追求し、子どもの活動の場となる環境について理解を深める。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション・子どもを取り巻く環境とは					
2	領域「環境」のねらい及び内容 / グループワーク					
3	自然環境との関わり / グループワーク					
4	動植物との関わりと生命尊重					
5	物的環境としての素材・物的環境としての遊具					
6	人的環境としての保育者、友達					
7	社会的環境としての地域、行事					
8	日常生活のなかでの数量や文字などへの関心					
9	思考力の芽生えを育む指導					
10	好奇心や探究心を育む指導					
11	子どもと保育者が一緒に創る環境					
12	領域「環境」にかかわる教材研究（PC など ICT の活用を含む）					
13	幼小接続期の課題					
14	領域「環境」の今日的課題					
15	まとめ					
使用テキスト・参考文献 新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」久保健太・高嶋景子・宮里暁美編著 ミネルヴァ書房 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』			単位認定の方法及び基準 レポートと平常点（授業態度、課題、演習への取り組み）で総合的に評価する。			

【実務経験】

幼稚園勤務（5年） 認定こども園勤務（1年）

授業の中で学生が出来るだけ自然環境に触れ、愛情を持って野菜や植物を育てられるように授業を展開しています。野菜や植物の成長の過程を観察し、その成長を仲間と一緒に喜び、自然界で起こる不思議な現象に気づき、命の大切さを感じることはとても大切な経験です。

授業概要

科目名 保育内容総合演習Ⅱ			形式 演 習	担当者名 三浦 直美	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 1 年生で履修した保育内容の科目を基に、保育における具体的展開を演習する。					
授業全体の内容の概要 ・ 1 年生で学んだ基礎的知識や理解の確認と展開。 ・ グループに分かれ、それぞれのグループで立案し演習に取り組む。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ・ 各グループにて立案・準備・演習し、保育現場で必要な内容を習得する。 ・ 基礎的知識や技能の習熟と、応用し実践していく力を育てる。 ・ 身につけた演習をグループごとで発表し達成感を味わうと共に、実践として子どもにも発表する機会を設け全体的な進行を考える力をつける。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	ミーティング				
2	子どものあそび ①				
3	子どものあそび ②				
4	子どものあそび ③				
5	子どものあそび ④				
6	子どものあそび ⑤				
7	子どものあそび ⑥				
8	子どものあそび ⑦				
9	リハーサル 1				
10	子どものあそび ⑦				
11	リハーサル 2				
12	最終確認				
13	まとめ ①				
14	発 表				
15	まとめ ②				
使用テキスト・参考文献 随時資料を配布する。			単位認定の方法及び基準 ・ 受講態度(積極性)を重視し、評価する。		

授業概要

科目名 乳児保育Ⅱ(ソーシャルワーク演習Ⅱ)			形式 演習	担当者名 内海 裕美	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい (1) 3歳未満児の発育、発達過程・特性の理解を深め、保育者として必要となる受容的で応答的な関わりや援助の基本的な考え方を理解する。 (2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境について具体的に理解する。 (3) 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。 (4) 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。					
授業全体の内容の概要 保育の計画を理解し発達に添った計画を考える。3歳未満児の発達の姿をとらえ、子ども一人ひとりに応じた援助や寄り添う関わりを考える。自分のアイディアを形にして乳児のあそびをつくる。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 3歳未満児の理解を深め、乳児保育者としての必要な資質、技術を身につける。受容的で応答的な関わりや援助を保育の計画に反映させられる基礎ができる。自分なりの保育観を養う。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	0、1、2歳児のあそび ①				
3	0、1、2歳児のあそび ②				
4	0、1、2歳児のあそび ③				
5	あそびの保育環境〔説明と立案〕				
6	あそびの保育環境〔準備〕				
7	あそびの保育環境〔準備〕				
8	あそびの保育環境〔実践〕				
9	あそびの保育環境〔振り返り〕				
10	0、1、2歳児のあそび ④				
11	乳児のあそびを豊かにするかかわり〔説明と立案〕				
12	乳児のあそびを豊かにするかかわり〔準備と練習〕				
13	乳児のあそびを豊かにするかかわり〔準備と練習〕				
14	乳児のあそびを豊かにするかかわり〔発表〕				
15	乳児のあそびを豊かにするかかわり〔振り返り〕				
使用テキスト・参考文献 ・はじめて学ぶ乳児保育 第三版 同文書院 ・保育所保育指針 (参考) 演習で学ぶ乳児保育他			単位認定の方法及び基準 共同作成物とそれを使用した演習の態度、提出物(手作りおもちゃ、レポート等)受講態度などで総合的に評価する		

授業概要

科目名 子どもの健康と安全			形式 演習	担当者名 釜島美智代	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育中の子どもの健康と安全を守る為の知識を習得する。 衛生管理、安全管理、体調不良等の対応に必要な知識を理解し実践できるよう応用能力と技術を習得する。					
授業全体の内容の概要 テキストや関連するガイドラインをもとに具体的な内容を理解しながら、保育における保健的対応を考え、演習で技術を体験する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育園での衛生管理の方法を説明できる。 体調不良時の対応、怪我への対応方法を説明できる。 保育施設での事故予防の方法、事故発生時の対処の方法を説明できる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション・衛生管理：保育所における感染症対策ガイドライン				
2	演習：下利便・嘔吐物の処理の方法				
3	演習：身体計測の方法				
4	演習：健康観察の方法				
5	体調不良時の対応（発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹）				
6	体調不良時の対応（腹痛・けいれん・脱水・頭痛・熱中症）				
7	体調不良時の対応（子どもと薬）				
8	保育中の事故防止の取り組み：事故防止の考え方、実態				
9	保育中の事故防止の取り組み：事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン				
10	応急手当 1 怪我への対応 （切った、擦った、刺した・ぶつけた、打った・骨折、捻挫、脱臼・かまれた、ひっかかれた）				
11	応急手当 2 怪我への対応 （口の中の傷・鼻出血・目のけが・虫刺され。やけど・誤飲誤嚥）				
12	応急手当 3 一時救命処置 心肺蘇生法、AED の使用方法				
13	個別的配慮が必要な子どもへの対応 アレルギー疾患 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン				
14	演習：食物アレルギー対応：アナフィラキシーショック時の対応等				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 これだけはおさえない！ 保育者のための子どもの健康と安全 改訂二版 創成社			単位認定の方法及び基準 筆記試験 50% 演習参加状況・授業内課題・レポート 50%		

授業概要

科目名 障害児保育 I			形式 演習	担当者名 安原 千香子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい “障害児保育” “共生(インクルーシブ)保育”に関する基礎知識を修得する。 実践に向けて保育者としての留意点について学び、自分なりの取り組みの姿勢を養う。					
授業全体の内容の概要（講義、DVD鑑賞、グループ発表、討議など） ① “障害”観、“障害”の概念、発達観の見直しなど基本となる視点を学ぶ。～ICFを基に ② 様々な“障害”や“合理的配慮”に関する基礎知識と保育における援助の留意点を考える。 ③ “障害児保育”の現状、課題と実践（保育所・幼稚園等）に於ける留意点を学ぶ。 ④ 各自の“障害”観・保育観を見直し、取り組みの姿勢を養う。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 上記①～④について基本的な知識を修得し、理解したことを基に、“障害児保育” “共生(インクルーシブ)保育”における自分なりの考え方と援助における方向性をもつ。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション/ “障害”とは・“障害”の考え方の理解(ICFから学ぶ) ＊グループディスカッション				
2	“共生(統合)保育、インクルーシブ保育”とは～“障害児保育”の場 “インクルージョン”と“インテグレーション”、“セグリゲーション”、さらに“合理的配慮”の意味と考え方				
3	様々な“障害”の理解と援助①「視覚障害・聴覚障害」「知的障害」「先天性異常」 ＊グループ発表と討議①				
4	“ ” ②「肢体不自由」「ことばの遅れ」原因の可能性と援助の考え方				
5	“ ” ③「発達障害①」発達障害の考え方				
6	“ ” ④「発達障害②」LD・ADHD＊グループ発表・討議含む ＊グループ発表と討議②				
7	“ ” ⑤「発達障害③」自閉症スペクトラム＊グループ発表・討議含む ＊グループ発表と討議③				
8	“ ” ⑥情緒の障害、ほか、知っておきたいこと				
9	“障害児保育”をめぐる体制や考え方 ～バリアフリー、合理的配慮の具体的事例など				
10	保育の場での援助内容の実際と考察（保育所・幼稚園等を中心に） “ ” ①情報収集(保護者面談・発達検査・記録法など) ＊グループ発表と討議④				
11	“ ” ②保護者、きょうだい児の心理と、保育者の役割 ＊グループ発表と討議⑤				
12	“ ” ③ 保育の進め方(考え方と配慮事項) ＊グループ発表と討議⑥				
13	“ ” ④ 保育の進め方(指導計画、他機関との連携、就学支援など)				
14	“ ” ⑤ 保育の進め方(自己の考え方の見直しと、自分なりの心構え)				
15	まとめと試験				
使用テキスト・参考文献 伊藤健次編「新・障害のある子どもの保育」 (株)みらい 他、随時紹介します。			単位認定の方法及び基準 最終試験と平常点 (発表・討議・レポート ・授業に取り組む姿勢など)		

授業概要

科目名 障害児保育Ⅱ（ソーシャルワーク演習Ⅲ）			形式 演習	担当者名 山口 美帆	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 「障害児保育」における、より実践的な子ども、保護者との関係作り、他職種との協働、他機関との連携等について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 ① 障害児保育の実践における基本 ②子ども・保護者との関係作り ③発達検査の実際 ② 指導計画作成・評価・記録 ④障害児保育における連携(職員間・関係機関・小学校接続) 講義・グループ討議・発表・演習等					
授業終了時の達成課題（到達目標） 障害児保育の実践についての基本的な知識を習得し、演習を行い、理解したことを基に自分なりの保育観を見いだす。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション		～障害児保育とは～		
2	障害のある子どもと過ごすために		～様々な障害について①～		
3	障害のある子どもと過ごすために		～様々な障害について②～		
4	障害のある子どもと過ごすために		～様々な障害について③～		
5	障害のある子どもと過ごすために		～様々な障害について④～		
6	障害のある子どもの保護者や家庭理解と支援				
7	障害児保育で大切にしたいこと		～コミュニケーションについて～		
8	障害児保育で大切にしたいこと		～環境作り②～		※視覚支援教材
9	障害児保育で大切にしたいこと		～環境作り②～		※視覚支援教材
10	障害児保育で大切にしたいこと		～発達の理解と発達検査～		
11	障害児保育で大切にしたいこと		～生活や遊びにおける支援～		
12	障害児保育で大切にしたいこと		～他機関との連携・小学校との接続～		
13	障害児保育で大切にしたいこと		～指導計画・個別支援計画、記録について～		
14	障害児保育で大切にしたいこと		～保育者の役割～		
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 伊藤 健次編 「新・障害のある子どもの保育」(株)みらい その他随時紹介			単位認定の方法及び基準 最終試験、授業への取り組み、提出物により 総合的に評価する。		

授業概要

科目名 ハートグローバル (HG) I・II			形式 演習	担当者名 坂口・植田 NPO) じぶん未来クラブ	
回数 各 8 回	時間数 各 15 時間	単位数 各 1 単位	開講学年 1・2 年	期別 前期	必修・選択 選択
【授業の目的・ねらい】 HG は音楽やダンスの技術向上、英語を学ぶためのプログラムではありません。20 数曲の歌やダンス、そしてパントマイムなどの英語によるワークショップを通じて、以下のことを体験のなかから学んでいくプログラムです。 ① SELF WORTH 参加者一人ひとりが他人と違った個性をもっていることを認識し、自信を獲得する。 ② RESPECT FOR OTHERS 自分と違った感じ方をする他人の大切さを学ぶ。 ③ PERFORMING ART 感じたことをそのまま表現することの大切さを学ぶ。 ④ TEAM WORK みんなで一つのことを真剣にやり遂げることの素晴らしさを学ぶ。 ⑤ INTERNATIONAL 文化交流・語学へのモチベーションの喚起。					
【授業全体の内容の概要】 HG は、アメリカの若者であるスタッフのサポートのもと、在校生や遙学園・ひびきの子ども、地域の子どもの総勢約 250 名が一緒になって、3 日間でミュージカルの舞台を作り上げていく、地域参加型体験授業です。舞台スタッフもしくは運営スタッフのどちらかを選択し登録します。					
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 5 つの教育効果の習得					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 ※日程等については変更の可能性があります。各自で掲示をよく確認する事。					
	実施日	授 業 内 容			
	4/月上旬	受講者決定（掲示発表）			
	4/中旬	舞台スタッフ費用徴収（昼休み：¥20,000 円持参） ※ こどもプロコース 1 年・こども学科は無料			
1	4/中旬～下旬	オリエンテーション①（昼休み）			
		オリエンテーション②（昼休み）			
		オリエンテーション③（昼休み）			
		※ 運営スタッフのみ 地域ボランティア（SV）・キッズサポーター（KS）とのミーティングを各 1 回実施予定			
2 3 4 5 6 7 8	5/9	ハートグローバル アウトリーチ① （会場：高槻城公園芸術文化劇場 南館トリシマホール） 17：00～20：00			
	5/10	ハートグローバル アウトリーチ② （会場：高槻城公園芸術文化劇場 南館トリシマホール） 12：30～19：00			
	5/11	ハートグローバル アウトリーチ③ （会場：高槻城公園芸術文化劇場 南館トリシマホール） 10：00～20：00			
使用テキスト・参考文献：なし その他 ○舞台スタッフについて（対象：全学年） 定員：約 10 名（プロコース 1 年＋若干名） ＊ 希望者多数の場合は抽選 ＊ 受講料 ¥20,000 円 （プロコース 1 年・こども学科は無料） ○運営スタッフについて（対象：HG 経験者） 定員約 10 名（プロコース 2・3 年＋若干名） ＊ 希望者多数の場合は抽選			単位認定の方法及び基準 ○受講態度 （居眠り・騒乱等による減点）に基づいて決定する。 ○学内オリエンテーション欠席者は、原則受講中止とする。 ○運営スタッフは、SV・KS とのミーティングに必ず出席すること。		

授業概要

科目名 キリスト教保育			形式 演習		担当者名 谷 克子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい キリスト教に基づく世界観、人間観、保育観を学び、教育・福祉従事者として柱としたい人間観・保育観を模索する。またキリスト教保育を行う保育所・幼稚園の保育内容を理解する。						
授業全体の内容の概要 愛、感謝、祈り、謙虚などの態度を大切にするキリスト教の人間観・保育観、保育内容を学び、キリスト教系の子ども施設の祈り、聖書のお話し、礼拝の仕方等を演習する。また保育内容にかかわるトピックを主体的に学ぶ。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育教育・福祉関係で働くに当たり、キリスト教の世界観・人間観を理解し尊重する思いをもつようになる。キリスト教系の子ども施設の保育内容を理解する。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション（授業内容、進め方等）					
2	キリスト教保育とは、キリスト教保育とそれ以外の保育の違い、キリスト教保育指針と保育所保育指針・幼稚園教育要領					
3	「ともに育つ」「ともに生きる」とは					
4	礼拝・祈り・賛美歌を歌う とは					
5	聖書とは、聖書を語ることについて、献金とは					
6	イエス・キリストについて					
7	遊び・ことば・生活を大切にする					
8	人権と平和、子どもの保育環境について					
9	行事について（日本の行事、キリスト教特有の行事）					
10	クリスマス飾りの作成等①					
11	〃 ②					
12	子どもと守るクリスマス礼拝、クリスマス絵本					
13	異なる文化への理解子どもの生と性					
14	子どもの生と性					
15	まとめ（保育者として成長）					
使用テキスト・参考文献 ・聖書、讃美歌 21 ・「キリスト教保育 50 の質問」キリスト教保育連盟			単位認定の方法及び基準 授業への取り組み、小テスト・レポート、により総合的に評価する。			

授業概要

科目名 <保育士のみ履修者対象> 基礎情報学 b			形式 演習	担当者名 東原 カオル	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 今年度開講せず					
授業全体の内容の概要					
授業終了時の達成課題（到達目標）					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準		

授業概要

科目名 保育実習指導ⅠA（ソーシャルワーク実習指導Ⅰ） 《保育実習ⅠA（ソーシャルワーク実習Ⅰ）》			形式 演習 《実習》	担当者名 坂口 まゆり・植田 彌生 小川 和代	
回数 30 回	時間数 60 時間 《90 時間》	単位数 4 単位 《2 単位》	開講学年 1 年	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 実践を通して施設の機能、職員の職務内容と役割、対象児についての基本的理解を深めることを目的とする。					
授業全体の内容の概要 夏休みのプレ実習と後期（10 月）の 2 週間の入所施設における宿泊実習と、それまでの事前学習、および事後のまとめが内容となる。実習の対象施設は児童養護施設、知的障害者施設の 2 種別である。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 事前学習では、対象児・対象施設について理解するとともに、実習生としての基本的態度、心構えを身につける。宿泊実習では、対象児・施設の機能を理解し、保育士の役割を研究しつつ実践する。事後学習では実習の反省・評価を今後の学びにつなげる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション		16	種別オリエンテーション	
2	児童養護施設について① （ビデオ学習）		17	種別勉強会①	
3	児童養護施設について② （講義）		18	種別勉強会②	
4	見学実習レポートについて①		19	種別勉強会③	
5	見学実習レポートについて②		20	種別勉強会④	
6	児童養護施設について③ （小テスト含む、講義）		21	種別勉強会⑤	
7	児童養護施設について④ （見学）		22	種別勉強会⑥	
8	知的障害児者施設について① （ビデオ学習）		23	種別勉強会⑦	
9	知的障害児者施設について② （講義）		24	種別勉強会⑧	
10	知的障害児者施設について③ （小テスト含む、講義）		25	種別勉強会⑨	
11	知的障害児者施設について④ （見学）		26	種別勉強会⑩	
12	医療型障害児入所施設について① （ビデオ学習）		27	種別勉強会⑪	
13	医療型障害児入所施設について② （講義）		28	学内オリエンテーション	
14	医療型障害児入所施設について③ （小テスト含む、講義）		29	実習報告会	
15	医療型障害児入所施設について④ （見学）		30	個人面接指導	
使用テキスト・参考文献 学校作成の実習ハンドブック 参考文献は、必要に応じて随時授業の中で紹介する。			単位認定の方法及び基準 見学レポート、実習記録、実習後レポート、実習施設の評価、出席状況および授業態度や意欲などから、総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保育実習指導ⅠB 《保育実習ⅠB》			形式 演 習 《実 習》	担当者名 城野敦子・内海裕美 中村 天	
回数 15回	時間数 30時間 《90時間》	単位数 2単位 《2単位》	開講学年 2年 (1年後期より開始)	期別 前期 (1年後期より開始)	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育所の持つ機能・役割・実態を実際の経験を通して理解し、保育の内容を体験的に学習する。					
授業全体の内容の概要 実習準備1と関連して、必要な知識・技術を身につけ、実習に不安なく効果的に取り組めるよう講義、演習、課題を通して学ぶ。また専門職として、社会人としての自覚と態度を養うよう学習意欲・態度が課題である。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育の魅力や子どもたちにかかわる楽しさを知ったうえで、子どもの発達段階や保育士としての役割や援助のあり方を理解するようになる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション（実習の意義と目的、授業の内容、進め方、課題の説明） 保育体験Ⅰについての説明				
2	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（0歳児）				
3	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（1歳児）				
4	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（2歳児）				
5	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（3歳児）				
6	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（4歳児）				
7	DVD視聴を通して子どもの発達とその援助を学ぶ（5歳児）				
8	演習（絵本他）①				
9	演習（絵本他）②				
10	実習施設への事前訪問について、その意義や目的、必要な手続き、礼儀、心得などについて学ぶ				
11	保育指導案（部分）を作成する。ねらい、環境構成、子どもの活動、保育者の援助、留意点などを作成する①				
12	保育指導案（部分）を作成する。ねらい、環境構成、子どもの活動、保育者の援助、留意点などを作成する②				
13	実習記録の具体的内容を確認し、記録方法を学ぶ①				
14	実習記録の具体的内容を確認し、記録方法を学ぶ②				
15	実習直前の準備と心構えの確認、訪問指導の意義や内容について理解する				
使用テキスト・参考文献 石橋裕子・林幸範編著『知りたいときにすぐわかる 新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』同文書院 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに				単位認定の方法及び基準 受講態度、提出物、小テスト、実習施設の評価（実習記録を含む）等により総合的に評価する。	

授業概要

科目名 保育実習指導Ⅱ 《保育実習Ⅱ》			形式 演 習 《実 習》	担当者名 内海裕美・城野敦子 中村 天	
回数 15 回	時間数 30 時間 《90 時間》	単位数 2 単位 《2 単位》	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 保育所における保育全般に参加し、保育士として必要な資質や能力、技術を高める。					
授業全体の内容の概要 保育実習Ⅰでの学習成果を基礎として、発達や個人差を把握し理解を深めて具体的な援助方法を習得できるようにする。遊びとその援助を指導計画の立案と実践により具体的に学ぶ。 また実習を経て課題を明確にし、保育所の役割を学ぶと共に、資質向上にむけてまとめをする。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 子どもの発達や個人差への理解を深め、援助方法を習得する。指導計画の立案・実践により、保育技術を向上させる。保育士としての資質を向上させる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	乳児の発達の特徴と遊びの援助				
3	乳幼児の発達の特徴と遊びの援助〈ボールあそびを通して〉				
4	幼児の発達の特徴と遊びの援助				
5	部分指導計画案の作成				
6	乳幼児の遊びの実践①				
7	乳幼児の遊びの実践②				
8	乳幼児の遊びの実践③				
9	実習前レポートの作成				
10	学外オリエンテーション、実習に向けての心構え				
11	実習記録の書き方①				
12	実習記録の書き方②				
13	学内オリエンテーション				
14	実習報告会				
15	個別面接指導				
使用テキスト・参考文献 小櫃智子著『パーフェクトガイド』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに			単位認定の方法及び基準 受講態度、演習内容、提出物、 実習施設の評価、記録等から 総合的に評価する。		

授業概要

科目名 保育実習準備Ⅱ			形式 演 習	担当者名 内海裕美、吉野 綾、 城野敦子、三浦直美 中村 天	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 将来保育士・幼稚園教諭として、また保育・教育実習に当たり、目標と自信をもって臨めるように具体的な保育技術の向上を図ることを目的とする。					
授業全体の内容の概要 体験学習を通して子どもとのかかわりや保育の方法への理解を深め実践するとともに、子どもの内面理解を目的とした記録の書き方を習得する。体験から得られた学びは、グループディスカッションを通して、視点を広げて柔軟な思考力をつける。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育士として、また保育・教育実習に当たり、目標と自信をもって臨めるように具体的に保育技術を向上させる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	記録の書き方（部分記録）				
3	保育体験 ①				
4	保育体験 ②				
5	保育体験振り返り ①				
6	記録の書き方（場面記録①）				
7	記録の書き方（場面記録②）				
8	保育体験 ③				
9	保育体験 ④				
10	保育体験振り返り ①				
11	記録の書き方（エピソード記録①）				
12	記録の書き方（エピソード記録②）				
13	保育体験 ⑤				
14	保育体験 ⑥				
15	保育体験振り返り ③				
使用テキスト・参考文献 小櫃智子著『パーフェクトガイド』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 田中享胤監修『実習の記録と指導案』ひかりのくに			単位認定の方法及び基準 受講態度、提出物、記録より総合的に評価する。		

授業概要

科目名 こども保育コース・こどもプロコース 保育実習指導Ⅲa 《保育実習Ⅲa》			形式 演習 《実習》	担当者名 植田 彌生	
回数 15 回	時間数 30 時間 《90 時間》	単位数 2 単位 《2 単位》	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 施設保育士を希望する者に対して開講し、児童福祉施設の全般を学習するとともに、自分の希望する種別について自己学習を進めていく。					
授業全体の内容の概要 保育所以外の児童福祉施設に入所・通所している児童の理解を深め、施設職員の業務等について学び、同時に実習希望施設について自己学習する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育所以外の児童福祉施設についての理解を深め、個別指導・グループ討議を通して、自分自身で考え、学び、行動する力を見につけることができるようにする。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション（授業の進め方）				
2	児童養護施設について				
3	知的障害児・者施設について				
4	重症心身障害児施設について				
5	乳児院、児童心理治療施設について				
6	児童自立支援施設、母子生活支援施設について				
7	児童館、その他の施設について				
8	児童関連施設について（児童相談所、家庭裁判所等）				
9	障害者に関する諸制度				
10	医学の基礎知識（脳、神経系、精神障害、てんかん等）				
11	実習を前にした課題学習（1）				
12	実習を前にした課題学習（2）				
13	実習を前にした課題学習（3）				
14	学内オリエンテーション				
15	報告会				
使用テキスト・参考文献 適時資料を配付する。			単位認定の方法及び基準 受講態度、提出物、実習施設の評価（実習記録を含む）について総合的に評価する。		

授業概要

科目名 こども福祉コース 保育実習指導Ⅲb（ソーシャルワーク実習指導Ⅱ） 《保育実習Ⅲb（ソーシャルワーク実習Ⅱ）》			形式 演習 《実習》		担当者名 小川 和代
回数 15 回	時間数 30 時間 《90 時間》	単位数 2 単位 《2 単位》	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 障害者の通所施設実習の事前準備として、障害者及び通所施設の機能を理解するとともに、障害者にとっての労働・地域生活・ノーマライゼーションについて学ぶ。					
授業全体の内容の概要 ①障害者の多様な障害の理解 ②障害者にとっての通所施設の役割を理解する。 ③障害者が地域生活を行う上での諸問題と 解決方法					
授業終了時の達成課題（到達目標） 障害者の生活上の困難を理解するとともに、当事者の立場にたってどうすれば自立した地域生活を送ることができるのかについて考えることができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション / 障害とは？～障害の概念について～①				
2	障害とは？～障害の概念について～② 障害者に関する諸制度～障害者総合支援法を中心に～① ＜障害者基本法・3 障害法＋発達障害者支援法・年金・雇用・総合支援法＞				
3	障害者に関する諸制度～障害者総合支援法を中心に～② ＜障害者基本法・3 障害法＋発達障害者支援法・年金・雇用・総合支援法＞				
4	障害者に関する諸制度～障害者総合支援法を中心に～③ ＜障害者基本法・3 障害法＋発達障害者支援法・年金・雇用・総合支援法＞				
5	通所施設とは～video①～				
6	障害理解について① / 小テスト				
7	通所施設の実際・通所施設見学				
8	障害理解について② / 見学の振り返り				
9	障害理解について③～video②～				
10	障害理解について④ / 実習前レポートについて				
11	ノーマライゼーション / 小テスト②				
12	支援計画について				
13	実習課題の理解と実習の進め方①				
14	実習課題の理解と実習の進め方②				
15	実習前学内オリエンテーション				
使用テキスト・参考文献 必要に応じてレジュメを配布します。 保育実習ⅠAのハンドブックを持参して下さい。			単位認定の方法及び基準 提出物・授業への取り組み、実習先評価、実習記録などにより総合的に評価。		

授業概要

科目名 保育実践演習			形式 演 習	担当者名 内海裕美、小川和代	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 保育の専門職として必要な資質・能力の習得の確認をおこない、まとめとして、知識・技能を活用した保育実践者としての総合的な力量の形成を目的とする。また、専門職・社会人としての自身の課題を自覚し、課題解決に向けて専門知識・技能の定着を図る。					
授業全体の内容の概要 これまでの保育に関する知識をもとに、課題について現状を分析する。子どもの発達や家庭環境等に配慮した保育実践の計画・展開をおこない、その場面に応じた適切な援助を考察する。社会人としての自覚を持ち、職責や職務の遂行について考える。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育に関する知識を横断的に用い、様々な保育に関する課題を分析・考察する力をつける。また、問題解決のための具体的な援助や対応を見つけ、実践する力をつける。保育者としての自身について振り返り、必要な知識・技術を学んでいこうとする姿勢を持つ。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション				
2	保育における現代的課題について				
3	子どもと子どもをとりまく環境の理解①				
4	〃 ②				
5	保育実践と課題分析①				
6	〃 ②				
7	〃 ③				
8	観察と記録・考察				
9	保育者の対人援助能力				
10	保育者の職務理解				
11	保育実践者から学ぶ				
12	保育者としての自己課題の設定				
13	保育の専門職として必要な資質・能力と今後の自己課題				
14	レポート指導				
15	グループ発表				
使用テキスト・参考文献 適宜資料の配布をおこなう			単位認定の方法及び基準 受講態度・ディスカッションの積極性と内容・レポート		

授業概要

科目名 保健体育・レクリエーションⅠ			形式 講義・実技	担当者名 大畑 秀典	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 幼児体育と聞けば運動面の成長だけを捉えがちであるが、運動面だけではなく心の育ちも含めての育ちになる。保育士としてどのように関わっていくかを考えていくことを目的とする。					
授業全体の内容の概要 基本的な運動あそびを知り、その時の関わり方を子どもになって体験をしていく。 あそびの裏側にある身体・心の育ちを感じながら、毎回自分の言葉でレポートを作成し提出する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 現場に立った時、いろいろな運動あそびを年齢や発達段階に応じた内容に変え対応することが出来るようになることを目標とする。提出したレポートは返還され、自身の大切な資料となる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション、身体を使ったレクあそび、季節感のある運動あそび 1 ～春～				
2	運動会関係				
3	身近のものをを使った運動あそび 1				
4	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび 1				
5	近代の子どもたちの問題				
6	幼児体育の意義・役割・指導法				
7	季節感のある運動あそび 2 ～夏から秋～				
8	移動遊具（マット・跳び箱・鉄棒）などを使った運動あそび 1				
9	移動遊具（マット・跳び箱・鉄棒）などを使った運動あそび 2				
10	身近なものをを使った運動あそび 2				
11	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび 1				
12	手具（縄・フープ・パラシュート・ボール）など使った運動あそび 2				
13	季節感のある運動あそび 3 ～秋から冬～				
14	季節感のある運動あそび 4 ～冬～				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 『元気な子どもを育てる幼児体育』 前橋明編 保育出版社			単位認定の方法及び基準 受講態度・提出物・テスト		

授業概要

科目名 保健体育・レクリエーションⅡ			形式 講義・実技	担当者名 中内 真悠	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 生涯にわたる健康づくりに関する基礎知識の修得と、実技を通して体力の維持・増進を図るとともに、幼児の健康づくりに必要な知識とスキルを学習する。					
授業全体の内容の概要 演習を通して体力づくりやコミュニケーション能力を養うとともに、生涯にわたる健康づくりと、幼児の人間形成における保健体育・レクリエーションの意義を学習する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 運動の必要性を理解し、生涯にわたる心身の健康づくりと幼児の運動支援ができる実践力を身に付ける。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション：保健体育とレクリエーションの意義				
2	実技：バレーボール①				
3	実技：バレーボール②				
4	講義：運動と健康				
5	実技：アルティメット①				
6	実技：アルティメット②				
7	講義：運動と心理学				
8	実技：バスケットボール①				
9	実技：バスケットボール②				
10	講義：運動と発育発達				
11	実技：卓球①				
12	実技：卓球②				
13	実技：ダンス				
14	実技：ドッチボール 他				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 必要に応じて資料を配布する			単位認定の方法及び基準 出席状況、受講態度、演習の活動評価及びレポートにより総合評価する		

授業概要

科目名 キリスト教教育Ⅰ・Ⅱ			形式 演習	担当者名 谷 克子	
回数 30 回 (1 回 45 分)	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1・2 年	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 本校の建学の基盤はキリスト教の精神である。将来、乳幼児・子ども・障害者・(高齢者)の教育・福祉のために働く者として、知識・技術の習得だけでなく、聖書にあるように、愛と奉仕と忍耐の心をもって仕えていく人になることを目的としている。					
授業全体の内容の概要 チャペルアワー(礼拝形式)に参加し、聖書を学び、メッセージを通じて自分のあり方を考える。その他、行事や講演を通してキリスト教について理解する。					
授業終了時の達成課題(到達目標) キリスト教の理念を理解する。聖書、賛美歌に親しむ。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション	16	キリスト教のメッセージに学ぶ⑦		
2	キリスト教の基礎理解①	17	〃 ⑧		
3	〃 ②	18	〃 ⑨		
4	〃 ③	19	〃 ⑩		
5	キリスト教教育月間 ①	20	〃 ⑪		
6	〃 ②	21	〃 ⑫		
7	〃 ③	22	〃 ⑬		
8	〃 ④	23	〃 ⑭		
9	〃 ⑤	24	〃 ⑮		
10	キリスト教のメッセージに学ぶ①	25	クリスマスに向けて①		
11	〃 ②	26	〃 ②		
12	〃 ③	27	〃 ③		
13	〃 ④	28	クリスマス礼拝		
14	〃 ⑤	29	キリスト教のメッセージに学ぶ⑩		
15	〃 ⑥	30	創立者召天記念礼拝		
使用テキスト・参考文献 聖書(新共同訳) 日本聖書協会 讃美歌 21 日本基督教団出版局			単位認定の方法及び基準 チャペルアワー、行事への取り組みと課題によって評価する。		

授業概要

科目名 基礎演習 I			形式 演習	担当者名 吉野綾・中村天	
回数 30 回 (1 回 45 分)	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 1 年	期別 通年	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 社会福祉にかかわる者として、人間の尊厳と平等を守る姿勢を貫くこと、 子ども・高齢者・障がい児者への必要・的確な援助を、創設者の理念を基に理解する。					
授業全体の内容の概要 保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許・社会福祉士受験資格(卒業後実務経験 2 年要)・社会福祉主事任用資格を理解する。 クラスメイトとのかかわり、学校行事等を通して自己覚知し、資格を目指して自己研鑽する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 望ましい保育士像を自分なりに描き、近づく努力をする。 就職・進級に向けて、次年度への目標を明確にする。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	自己紹介・桜バザーの説明	16	実習に向けて 授業態度・生活態度の再確認		
2	新入生リトリートの説明	17	基礎学習／マナー問題①		
3	クラス委員の選出・クラス運営の説明	18	基礎学習／マナー問題②		
4	授業の受け方	19	基礎学習／マナー問題③		
5	講義の受け方	20	学校行事準備①		
6	ノートのとり方①	21	学校行事準備②		
7	ノートのとり方②	22	学校行事準備③		
8	漢字練習問題①	23	学校行事準備④		
9	漢字練習問題②	24	学校行事振り返り		
10	漢字練習問題③	25	漢字練習問題⑦		
11	漢字練習問題④	26	漢字練習問題⑧		
12	試験の受け方・資料の整理	27	漢字練習問題⑨		
13	漢字練習問題⑤	28	一年間の振り返り		
14	漢字練習問題⑥	29	漢字練習問題まとめ		
15	夏期休暇の過ごし方について・まとめ (社会人としてのマナー、態度、言葉遣いについて)	30	次年度に向けて		
使用テキスト・参考文献 資料はその都度配布する。			単位認定の方法及び基準 ①出席を重視する。 その他発表、取り組みの姿勢を加味して総合的に評価する。		

授業概要

科目名 人権講座 I			形式 演習	担当者名 三枝 教男	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 必修
授業の目的・ねらい 人権の大切さと具体的差別の現状を理解する。					
授業全体の内容の概要 人権の概要・部落差別・障害者差別・女性差別を学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 差別の現状理解					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	人権論の概要 1				
2	人権論の概要 2				
3	部落差別 1				
4	部落差別 2				
5	障害者差別 1				
6	障害者差別 2				
7	女性差別 1				
8	女性差別 2				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用テキスト・参考文献 無し			単位認定の方法及び基準 各講義のレポートを総合評価		

授業概要

科目名 こども保育コース 基礎演習Ⅱ			形式 演 習		担当者名 城野敦子・内海裕美	
回数 30 回 (1 回 45 分)	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 1 年後、保育者として教育・福祉の現場で働く者にふさわしい人格を磨くとともに、就職活動の支援を行う。進学や他業種に進む者にも同等の指導を行う。就職斡旋、指導だけでなくキャリアガイダンス（人生設計）的におこなっていく。						
授業全体の内容の概要 就職ガイドブックやプログラムに沿って進める。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 翌年の 4 月には、保育者として社会人としての自覚を身につけ、自分の道を歩み出せるようにする。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション 証明書発行上の注意（欠席等）		16	後期オリエンテーション 夏期休暇中活動報告		
2	就職ガイダンス 一年の流れ		17	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
3	進路調査票について 面談方法について		18	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
4	履歴書の書き方①		19	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
5	〃 ②		20	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
6	〃 ③		21	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
7	卒業生講演		22	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
8	履歴書練習の返却（志望動機添削等）		23	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
9	電話のかけ方		24	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
10	手紙の書き方		25	「今考えていること」5 分間スピーチ 採用試験準備 個別面談		
11	模擬試験		26	社会人としての心構え① 研修に関する諸注意		
12	模擬試験		27	社会人としての心構え②		
13	面接の受け方①		28	同窓会活動について		
14	〃 ②		29	卒業証明書等の発行について		
15	夏期休暇前ガイダンス		30	最終就職ガイダンス		
使用テキスト・参考文献 『大阪保育福祉専門学校 就職ガイドブック』 本校編集			単位認定の方法及び基準 受講態度や提出物で総合評価する			

授業概要

科目名 こどもプロコース・こども福祉コース 基礎演習Ⅱ			形式 演習		担当者名 小川 和代・三浦 直美	
回数 30 回 (1 回 45 分)	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 2 年後、保育者として教育・福祉の現場で働く者にふさわしい人格を磨きながら、就職活動の仕方を学ぶ。他業種に進む者にも同等の指導を行う。またキャリアガイダンス（人生設計）を行う中で次年度のプログラム設計を考える。						
授業全体の内容の概要 就職ガイドブックにより具体的な就職活動について学ぶ。次年度の個別プログラムを設計する。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 保育者として社会人として働く技術と自覚を身につけながら、次年度以降の各自の道を模索する。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーション 証明書発行上の注意（欠席等）		16	後期オリエンテーション		
2	採用試験対策①		17	採用試験対策⑭		
3	〃 ②		18	〃 ⑮		
4	〃 ③		19	〃 ⑯		
5	〃 ④		20	〃 ⑰		
6	〃 ⑤		21	〃 ⑱		
7	〃 ⑥		22	〃 ⑲		
8	〃 ⑦		23	〃 ⑳		
9	〃 ⑧		24	HOSEN フェスタについて①		
10	〃 ⑨		25	HOSEN フェスタについて②		
11	〃 ⑩		26	3 年目についてオリエンテーション		
12	〃 ⑪		27	3 年目について先輩の講演①		
13	〃 ⑫		28	〃 ②		
14	〃 ⑬		29	子育てスクール準備		
15	夏期休暇前ガイダンス		30	子育てスクール準備 春季休暇前ガイダンス		
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準 受講態度・提出物により総合的に評価する。			

授業概要

科目名 権利擁護を支える法制度			形式 講義	担当者名 前阪千賀子・西出一美 他	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 権利擁護の本質を学習しよりよい支援につなげていくために、法学の本質的理解の獲得をねらいとする。					
授業全体の内容の概要 権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護活動と意思決定支援については権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法学の視点から何が必要なのかについて学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要、意思決定支援、本人の最善の利益について、成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法等を理解できるようになる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	成年後見制度				
2	権利擁護とは、成年後見、未成年後見				
3	日常生活自立支援事業				
4	障害者・高齢者への支援の実際、日常生活自立支援事業とは、グループワーク				
5	法とのかかわり				
6	憲法、民法、行政法				
7	権利擁護活動の実際				
8	消費者加害・被害、グループディスカッション、まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用テキスト・参考文献 適宜プリントを使用			単位認定の方法及び基準 授業への参加態度、最終試験によって評価する。		

授業概要

科目名 刑事司法と福祉			形式 講義	担当者名 前阪千賀子・西出一美 他	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 1 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 刑事司法を概観し、相談援助活動に必要な更生保護制度について学ぶことにより、習得したことを社会や他者のために還元する意欲の向上を図ることをねらいとする。					
授業全体の内容の概要 刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携、更生保護の概要・担い手、保護観察制度、医療観察制度、犯罪被害者等支援を中心に学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 刑事司法と福祉の概要、更生保護制度、医療観察制度、保護観察制度について理解できるようになる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	成人と少年に対する手続き				
2	司法福祉とは、成人に対する手続き、少年に対する手続き				
3	精神医療と医療観察法				
4	精神疾患、医療観察法、依存症				
5	社会内処遇				
6	保護観察所、更生保護施設・保護司、地域生活定着支援センター				
7	犯罪被害者支援				
8	被害者支援、グループディスカッション、まとめ				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
使用テキスト・参考文献 適宜プリントを使用			単位認定の方法及び基準 授業への参加態度、最終試験によって評価する。		

授業概要

科目名 総合こども学科・こども学科 英会話			形式 演習	担当者名 日下部 純江	
回数 7 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 1 年	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 日本語と英語の違いについて構造的な知識理解を深める（特に音声面）。 英語の歌、絵本、手遊びなどを、学び合いを通して、将来保育者として現場で実践できる基礎的な知識、技術習得、表現力の習得を目指す。					
授業全体の内容の概要 講義形式、学び合い形式、また実践発表形式で進める。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 英語と日本語の差異についての基本的知識を理解し、各自の英語音声による発表が行える。 将来保育の現場において、英語の歌、絵本、手遊びなどの学びを、保育者として必要な場面で実践に活かすことができるようにする。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	自己紹介・オリエンテーション・コミュニケーションゲーム、歌、振り付け				
2	英語音声指導 1、2（母音、子音）、コミュニケーションゲーム・英語の歌の振り付け				
3	英語音声指導 3、4（連結子音、有声音、無声音）・英語の歌の振り付け				
4	英語絵本・歌を使って実践・英語のリズム、イントネーション、手遊び				
5	英語絵本・歌を使って実践・擬声音、擬態音、チャンツ、ことわざ、振り付け				
6	英語のリズム・イントネーション・手遊び歌・クイズ・ミニ発表				
7	英語絵本・歌・これまでの講座を受講しての感想などのミニ発表、振り付け				
使用テキスト・参考文献 指定のテキストは使用せず、資料は講師が作成し毎回配付します。			単位認定の方法及び基準 受講態度・プレゼンテーションなどへの取り組みにより総合的に評価する。		

授業概要

科目名 ガイドヘルパー（知的）資格取得講座			形式 演習		担当者名 鷺岡 由美	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	開講学年 1.2年	期別 前期もしくは 後期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい 知的障害のある方の余暇活動の充実や社会参加の機会が広がるように支援する。日常生活においての不自由さや困難を知り、その人らしい生き方や過ごし方を理解する。						
授業全体の内容の概要 障害者（児）福祉制度、移動支援従業者の業務や職業倫理、障害の理解、人権や心理等の講義が2日の他、実習を1～2日行う。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 知的障害者移動支援従業者の資格を取得する。資格取得後、事業所に登録をしてアルバイトをすることも可能。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	障害者（児）福祉制度と移動支援事業					
2	移動支援従業者の業務、職業倫理					
3	障害の理解					
4	移動介助の基礎知識					
5	障害者（児）の心理、人権					
6	コミュニケーション実習					
7	外出介助実習					
8	外出介助実習					
使用テキスト・参考文献：なし 校内での開講ではなく、移動支援従業者養成を行っている事業所にて受講する。交通費や実習にかかる経費は自己負担となる。			単位認定の方法及び基準 科目登録者が修了証のコピーを提出した場合のみ単位認定を行う。 全出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は認められない。			

授業概要

科目名 重度訪問介護従業者資格取得講座			形式 演習		担当者名 鷺岡 由美																	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	開講学年 1・2年	期別 後期	必修・選択 選択																	
授業の目的・ねらい 身体に重度の障害があり、常時介護を必要とする方に対し、自宅での入浴や食事等の介護や家事を行う他、外出時の介護を行うに必要な知識や技術を身につける。																						
授業全体の内容の概要 全身性障害者の地域生活支援、全身性障害者の疾病や障害の理解、基礎的医学一般等の講義が概ね2日の他、介護技術実習や外出介護実習を行う。																						
授業終了時の達成課題（到達目標） 重度訪問介護従業者の資格を取得する。資格取得後、事業所に登録をしてアルバイトをすることも可能。																						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法																						
<table><tr><td>1</td><td>全身性障害者の地域生活支援概論</td></tr><tr><td>2</td><td>全身性障害者の疾病・障害の理解</td></tr><tr><td>3</td><td>全身性障害者への介護概論</td></tr><tr><td>4</td><td>基礎医学一般、緊急時の危険防止</td></tr><tr><td>5</td><td>生活支援介護実技実習</td></tr><tr><td>6</td><td>生活支援介護実技実習</td></tr><tr><td>7</td><td>外出介護実技実習</td></tr><tr><td>8</td><td>外出介護実技実習</td></tr></table>							1	全身性障害者の地域生活支援概論	2	全身性障害者の疾病・障害の理解	3	全身性障害者への介護概論	4	基礎医学一般、緊急時の危険防止	5	生活支援介護実技実習	6	生活支援介護実技実習	7	外出介護実技実習	8	外出介護実技実習
1	全身性障害者の地域生活支援概論																					
2	全身性障害者の疾病・障害の理解																					
3	全身性障害者への介護概論																					
4	基礎医学一般、緊急時の危険防止																					
5	生活支援介護実技実習																					
6	生活支援介護実技実習																					
7	外出介護実技実習																					
8	外出介護実技実習																					
使用テキスト・参考文献：配付資料 校内での開講ではなく、移動支援従業者養成を行っている事業所にて受講する。事業所までの交通費や実習にかかる経費は自己負担となる。			単位認定の方法及び基準 科目登録者が修了証のコピーを提出した場合のみ単位認定を行う。 全出席が原則であり、欠席・遅刻・早退は認められない。																			

授業概要

科目名 ソーシャルワークⅡ			形式 演習	担当者名 小川 和代	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会福祉に従事するものとして必要な、社会福祉援助に関する基礎的素養を習得すること。					
授業全体の内容の概要 社会福祉援助とその過程について、「目的」「歴史」「理念」「体系」など基本的な知識を網羅する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 社会福祉従事者として持つべき視点、考え方などについての理解が深まっている。 ソーシャルワークの援助過程についての理解が深まっている。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション ー何を援助するのかー 目的、価値観、専門職				
2	社会福祉援助の価値・理念・原則①				
3	社会福祉援助の価値・理念・原則②				
4	社会福祉援助の価値・理念・原則③				
5	ソーシャルワークの援助過程①				
6	ソーシャルワークの援助過程②				
7	ソーシャルワークの援助過程③				
8	ソーシャルワークのあゆみ ーイギリス・アメリカ・日本ー				
9	ソーシャルワークのあゆみ ー体系化・理論化・統合化・現代の潮流ー				
10	ケースワーク（個別援助技術）①				
11	ケースワーク（個別援助技術）②				
12	ケースワーク（個別援助技術）③～演習・面談とその技術について①～				
13	ケースワーク（個別援助技術）④～演習・面談とその技術について②～				
14	ケースワーク（個別援助技術）⑤～演習・事例を通じた援助過程の理解～				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 「実践に活かす社会福祉」井元真澄・坂本健編著 ミネルヴァ書房			単位認定の方法及び基準 授業への取り組み、提出物、試験の結果等より 総合的に判断する。		

授業概要

科目名 こども福祉コース 		
---------------------	--	--

授業概要

科目名 医学一般			形式 講義	担当者名 中家 洋子	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会福祉の専門職として、支援対象者集団を、保健医療の視点から理解し、対処するために必要な健康と疾病や障害について学び、社会福祉の実践に必要な知識を得る。					
授業全体の内容の概要 1. 身体構造と心身機能 2. 疾病と障害 3. 国際生活機能分類（ICF）の基本的な考え方の理解 4. リハビリテーションの概要					
授業終了時の達成課題（到達目標） 社会福祉における対人支援において、基本的な身体構造や心身機能、疾病や障害を理解し、多職種・多機関との連携を図りながら問題解決に取り組む活動ができる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション ライフステージにおける心身の変化				
2	人の成長・発達と老化健康および疾病の捉え方				
3	障害のとらえ方・国際生活機能分類（ICF）				
4	人体の構造と器官の働き（人体各部の名称・骨格、関節の働き） ＊小テスト				
5	人体の構造と機能：感覚器（視覚・聴覚・皮膚）視覚・聴覚の疾患と障害				
6	人体の構造と機能：器官系や臓器の役割(心臓・腎臓・呼吸器・消化器)				
7	疾病と障害およびその予防：(心疾患・呼吸器疾患)				
8	疾病と障害およびその予防：(感染症疾患・骨・関節の疾患)				
9	疾病と障害およびその予防：(腎臓、内分泌疾患・消化器疾患)				
10	人体の構造と機能：(脳と神経)				
11	疾病と障害およびその予防：(脳血管疾患 高次脳機能障害 認知症・ビデオ学習)				
12	リハビリテーションの概要：障害の成り立ちと回復過程 ＊小テスト				
13	グループ調べ（生活習慣病・予防医学・福祉に関する医学的用語）				
14	グループ発表(40 分) 疾患とその予防：精神疾患 発達障害				
15	医学一般のまとめ：理解度テスト				
使用テキスト・参考文献 社会福祉士養成講座 医学概論 中央法規出版			単位認定の方法及び基準 小テスト レポートの提出(振り返りシート含む) 授業態度 最終試験		

授業概要

科目名 社会学			形式 講義	担当者名 砂田 貴彦	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会学の基本的な社会システムの理論等を中心に日常生活の福祉問題を考える。					
授業全体の内容の概要 主として社会福祉の視点より、社会の現状を理解し、社会課題について具体的に考えることができる。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 身近な社会課題を我が事とし、当事者意識を持ち、そのうえで社会福祉士の資格を取得すればどのようなアクションが起こせるのかを考えながら社会福祉士の受験までの計画を立てる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	社会学と社会課題についての関係				
2	社会システム概念とパーソンズの AGIL 理論、社会階層や社会移動について				
3	社会的行為とその類型、関連する社会学派、提唱した人物とその理論について				
4	社会的役割、社会関係資本、社会的ジレンマ、集団や組織に関する理論について				
5	地域福祉と過疎対策、地域包括ケアシステム、災害時の被災者支援とボランティア				
6	社会問題、環境問題、ひきこもり、ヘイトスピーチや自殺対策について				
7	グローバリゼーションとその課題				
8	これからの社会と新しい社会問題を考える（復習とまとめ）				
使用テキスト・参考文献 第 34 回、35 回、36 回、37 回 社会福祉士国家試験過去問題			単位認定の方法及び基準 ・ 授業への参加態度・・・20% ・ 事後課題の提出及び内容・・・60% ・ 最終課題の評価・・・20% 上記の基準を総合的に判断し、単位認定する。		

授業概要

科目名 社会調査の基礎			形式 講義	担当者名 砂田 貴彦	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会調査の重要性、限界、倫理について理解する。					
授業全体の内容の概要 簡単な統計学や分析方法を利用しつつ、量的、質的どちらの面からも社会の現状を理解する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 授業で学んだ知識から課題への当事者意識を持ち、そのうえで社会福祉士の資格を取得すればどのようなアクションが起こせるのかを考えながら社会福祉士の受験までの計画を立てる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	社会調査と社会福祉との関係性、社会調査の用語を確認する				
2	社会調査の目的と倫理、及び統計について				
3	質的調査と量的調査について				
4	質問調査票の作成と吟味				
5	データ収集方法の確認とデータ収集の実施				
6	データ収集後のまとめと倫理的な検討				
7	収集したデータの発表と課題				
8	復習とまとめ				
使用テキスト・参考文献 第 34 回、35 回、36 回、37 回 社会福祉士国家試験過去問題			単位認定の方法及び基準 ・ 授業への参加態度・・・20% ・ 事後課題の提出及び内容・・・60% ・ 最終課題の評価・・・20% 上記の基準を総合的に判断し、単位認定する。		

授業概要

科目名 地域福祉の理論と方法			形式 講義		担当者名 小川 和代	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい ①「地域社会で暮らし続ける」ということについて考え、理解を深める ②地域福祉の主体と対象を理解する ③地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する						
授業全体の内容の概要 今日における「地域福祉」について、その成り立ちや理念、関連する法律等を理解する。また、地域での実践にも積極的に目を向ける。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 地域福祉推進の必要性について、理解が深まっている。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	オリエンテーションー地域福祉とはー					
2	地域福祉の歴史と展開①					
3	地域福祉の歴史と展開②					
4	地域福祉の理念と概念①					
5	地域福祉の理念と概念②					
6	社会サービスと地域福祉①					
7	社会サービスと地域福祉②					
8	地域自立生活の支援					
9	地域福祉計画①					
10	地域福祉計画②					
11	地域福祉計画③					
12	住民のエンパワメントとボランティア					
13	地域福祉に関わる機関・人材ー社会福祉協議会など①ー					
14	地域福祉に関わる機関・人材ー社会福祉協議会など②ー					
15	まとめ					
使用テキスト・参考文献 シリーズ・保育の基礎を学ぶ① 「実践に活かす社会福祉」井元真澄・坂本健編著 ミネルヴァ書房			単位認定の方法及び基準 提出物、授業態度、試験の結果等より総合的に判断します。			

授業概要

科目名 福祉サービスの組織と経営			形式 講義		担当者名 潮谷 光人	
回数 8回	時間数 15時間	単位数 1単位	開講学年 2年	期別 前期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい 社会福祉サービスの組織を把握し、その機能について明らかにする。今後の施設のあり方として要求されているサービスの質の確保、事故防止などについても検討を行う。また、福祉サービス市場化というなかで様々な支援主体の現状について理解をしていく。						
授業全体の内容の概要 福祉サービスにおけるさまざまな主体を理解するとともにその機能について把握をする。サービス内におけるより高い質を確保するためのサービス内の構造について理解する。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 1.現在の福祉資源とサービス主体について説明できる 2.福祉サービス内においてどのような質を向上させるシステムがあるのか一定説明できる						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	福祉サービスを提供するさまざまな組織					
2	福祉サービスの沿革と概況					
3	福祉サービスの役割～公益的活動、多機関協働、地域連携など～					
4	福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論～組織における意思決定、問題解決の思考と手順、モチベーションと組織の活性化～					
5	チームアプローチとリーダーシップ					
6	サービスの質を管理するために					
7	事故防止および福祉サービス内虐待への対応					
8	キャリアパスと人事考課のあり方					
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
使用テキスト・参考文献 「福祉サービスの組織と経営」 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規			単位認定の方法及び基準 小テスト（20％）試験（60％）授業課題（20％） その他、平常点、授業内での発言、提出物なども成績に反映する。			

授業概要

科目名 社 会 保 障			形式 講義	担当者名 潮谷 光人	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会保障の歴史的背景と理念、制度について学ぶ。公的社会保障、民間の活動などについて理解し、相互の関⿇と効率的な連携について学ぶ。					
授業全体の内容の概要 日本における社会保障制度についての基礎知識の習得を第一の目的として、それぞれの制度理解を図る。また、現在進行中の社会保障改革について、現行制度の問題点や改革のポイントなどを中心に解説する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） ① 日本の社会保障の概要を把握する。 ② 日本の社会福祉制度の内容と課題を理解する。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション、私たちの生活と社会保障、社会保障の理念				
2	社会保障の機能と歴史的変遷				
3	社会保障の構造（社会扶助と社会保険）				
4	社会保障の財源と費用				
5	社会保険制度Ⅰ 年金保険制度				
6	社会保険制度Ⅱ医療保険制度・労働保険制度				
7	社会保険制度Ⅲ介護保険制度				
8	社会保障が当面する課題、まとめ				
使用テキスト・参考文献 テキスト社会保障 第6版 中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編集 レジュメを適宜配布する。			単位認定の方法及び基準 受講姿勢（20%）、小テスト（30%）と試験（50%）の総合評価		

授業概要

科目名 高齢者福祉			形式 講義	担当者名 渡邊 泰夫	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 1. 高齢者とその家族の生活と、それを取り巻く社会環境について理解する。 2. 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を習得する。					
授業全体の内容の概要 1. 高齢者の特性を社会的、身体的、精神的な側面から学ぶ。 2. 高齢者に対する関連諸制度や、高齢者を取り巻く社会環境を学ぶ。 3. 事例を通して高齢者と家族等に対する支援の実際を学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 高齢者が生活の質を保ち最期まで自分らしい人生を送れるよう、社会福祉士として支援ができ、また、地域共生社会の実現において力量を発揮し活躍できる。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション・高齢者の特性				
2	少子高齢社会の到来				
3	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境				
4	高齢者福祉の歴史				
5	高齢者福祉の理念				
6	介護保険制度の概要① 介護保険制度のしくみ				
7	介護保険制度の概要② 要介護認定・保険料				
8	地域支援事業 地域包括支援センター				
9	介護保険サービスの体系				
10	高齢者に対する関連諸制度① 老人福祉法・高齢者虐待防止法				
11	高齢者に対する関連諸制度② バリアフリー法・高齢者住まい法				
12	高齢者と家族等の支援における関係機関				
13	高齢者と家族等の支援における専門職の役割				
14	高齢者と家族等に対する支援の実際				
15	まとめ				
使用テキスト・参考文献 社会福祉士養成講座 高齢者福祉 中央法規出版			単位認定の方法及び基準 試験・小テスト、受講態度などから総合的に評価する。		

授業概要

科目名 障 害 者 福 祉			形式 講義	担当者名 眞頼 正施	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 障害のある人の「障害」の実態・認知特性などについて理解し、求められる支援の方法を学ぶ。					
授業全体の内容の概要 障害のある人の具体的な生活や活動例及び障害のある人の話を聞くことで、障害があることによる生きづらさを知る。そのうえで、①障害福祉制度、②障害者福祉サービスの概要、③障害者に対する相談・支援、④障害者福祉の関連施策などを学ぶ。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 障害者福祉の基本的な考え方を理解し、障害児・者に対する相談や支援に必要な知識・技術を身につける。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 【障害の概念と障害者の実態】ICIDH から ICF へ/ICIDH と ICF/医学モデルと社会モデル/事例から				
2	身体障害児者・知的障害児者・精神障害者/生活のしづらさ/地域移行と就学				
3	ユニバーサル/障害を理由とする差別の解消/障害者虐待防止/少子高齢化/地域共生社会/障害とは？				
4	【障害者福祉の理念】ノーマライゼーション/自立とリハビリテーション/ソーシャルインクルージョン				
5	障害者の権利に関する条約/障害者基本法				
6	【障害者福祉の歴史】①近代以前 ②戦前戦中 ③戦後初期 ④経済成長期 ⑤近年				
7	【住む（居住支援）】障害者の住まいと公営住宅/住宅セーフティネット法/障害者総合支援法によるグループホーム制度・自立生活援助/福祉部局と住宅部局の連携				
8	障害者総合支援法のサービス体系（介護給付費・訓練等給付費・自立支援医療・補装具・相談支援・地域生活支援事業）				
9	身体障害者の福祉/知的障害者福祉法/精神障害者の福祉/発達障害者支援法/福祉と介護・医療の連携				
10	【働く（就労支援）】働く現状/障害者雇用促進法/福祉的就労/障害者優先調達推進法/雇用と福祉の連携				
11	【育つ・学ぶ（育成支援）】児童福祉法/母子健康法/学校教育法/福祉と教育の連携 【楽しむ（余暇支援）】障害者文化芸術活動推進法/スポーツ基本法				
12	【守る（権利擁護など）】障害者虐待防止法/障害者差別解消法/バリアフリー法/障害者情報アクセスビリティ・コミュニケーション施策推進法				
13	【社会福祉士と精神保健福祉士の役割】社会福祉士・精神保健福祉士・相談支援専門員/当事者組織・ピア活動・家族会				
14	【関連する専門職の役割】専門職の役割/多職種連携 【支援の実際】地域相談支援/就労支援/居住支援				
15	試験				
参考文献 ・適宜レジメ、資料を配布			単位認定の方法及び基準 ・受講態度等 10% ・レポート、小テスト提出 20% ・期末筆記試験 70%		

授業概要

科目名 貧困に対する支援			形式 講義	担当者名 砂田 貴彦	
回数 8 回	時間数 15 時間	単位数 1 単位	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 社会福祉制度の中でも、貧困に対する制度施策に関する知識を広げ、とくに公的扶助制度の歴史の変遷や、社会保障制度との関係性について理解する。					
授業全体の内容の概要 18 世紀のイギリスから現在の日本に至るまで、近現代における貧困とその対策の変遷を、歴史的背景を中心に学び、現在の日本の生活保護制度について理解を深める。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 生活保護制度の概要と、現在の貧困対策における課題について理解する。また、平行して社会福祉士試験の受験準備をする。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	イギリスの公的扶助の歴史～エリザベス救貧法からナショナルミニマムまで～				
2	日本の公的扶助の歴史 その 1 明治時代から昭和初期までの公的扶助の変遷				
3	日本の社会福祉の歴史 その 2 昭和中期から平成までの公的扶助の変遷				
4	生活保護制度の基本 その 1 生活保護の 4 つの原理				
5	生活保護制度の基本 その 2 生活保護の 4 つの原則				
6	生活保護制度の応用 その 1 あなたがもし生活保護を受給するとしたら				
7	生活保護制度の応用 その 2 あなたがもし生活保護を受給するとしたら				
8	復習とまとめ				
使用テキスト・参考文献 第 34 回、35 回、36 回、37 回 社会福祉士国家試験過去問題			単位認定の方法及び基準 ・ 授業への参加態度・・・20% ・ 事後課題の提出及び内容・・・60% ・ 最終課題の評価・・・20% 上記の基準を総合的に判断し、単位認定する。		

授業概要

科目名 保健医療と福祉			形式 講義		担当者名 福井 秀隆	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 前期	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい 医療保険制度、診療報酬制度を理解し、医療制度改革の流れをつかむ。また、医療ソーシャルワーカーの業務指針を中心に、医療ソーシャルワーカーの業務を理解する。						
授業全体の内容の概要 90 年代からの急激な医療制度改革の流れを理解し、保健医療分野での医療ソーシャルワークについて学ぶ。						
授業終了時の達成課題（到達目標） 医療ソーシャルワークに関する基礎的な知識・技術の習得 医療制度改革の理解						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	保健医療の動向					
2	保健医療の歴史的展開					
3	医療保険制度の概要					
4	医療保険制度の概要					
5	保健医療対策の概要					
6	医療提供施設の概要					
7	診療報酬制度					
8	保健医療における専門職の役割と連携・協働					
9	保健医療領域における支援の実際					
10	地域包括ケアシステムと在宅医療					
11	保健医療に係る倫理					
12	病気・障害を抱える人びとや家族に対する援助					
13	精神障害を抱えた人びとや家族に対する相談・援助活動					
14	高齢者福祉の問題を抱えた人びとに対する相談・援助活動					
15	テスト					
使用テキスト・参考文献 児島美都子「保健医療と福祉」学文社			単位認定の方法及び基準 受講態度・小テスト・最終試験			

授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習Ⅲ			形式 実習	担当者名	
回数 30 回	時間数 60 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年	期別 通年	必修・選択 選択
授業の目的・ねらい 詳細は授業時に提示する					
授業全体の内容の概要 同上					
授業終了時の達成課題（到達目標） 同上					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 同上					
使用テキスト・参考文献			単位認定の方法及び基準 詳細は授業時に提示する。		

授業概要

科目名 《幼稚園免許取得コース対象科目》 基礎情報学 a			形式 演習		担当者名 長岡 孝美	
回数 15 回	時間数 30 時間	単位数 2 単位	開講学年 2 年（1 年次、時 間割外で受講）	期別 ※1（別途指示）	必修・選択 選択	
授業の目的・ねらい ・パソコンの扱いに慣れ親しむとともに、一般的なアプリケーションソフトウェアである Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作を学ぶ。						
授業全体の内容の概要 ・アプリケーションソフトウェア（Word・Excel・PowerPoint）の基本的な操作を習得する。 《開講予定日》 別途掲示						
授業終了時の達成課題（到達目標） ・アプリケーションソフトウェア（Word・Excel・PowerPoint）の基本的な操作ができる。 ・レポート・課題作成に難なく使用できるようになる。						
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法						
1	はじめに コンピュータの基礎、ネットワークの利用 Word1 文字入力・文書作成					
2	Word2 文書作成・編集					
3	Word3 文書作成・編集・印刷					
4	Word4 表の作成・編集					
5	Word5 表現力を高める①（ワードアート・クリップアート）					
6	Word6 表現力を高める②（図形描画）					
7	Excel1 エクセルの基礎					
8	Excel2 表の作成①・印刷					
9	Excel3 表の作成②・関数の利用					
10	Excel4 グラフの作成①					
11	Excel4 グラフの作成②					
12	Excel5 ワークシートの連携・複数シートの操作					
13	Excel6 データベース処理					
14	PowerPoint1 スライドの作成・編集①					
15	PowerPoint2 スライドの作成・編集②、総復習					
使用テキスト・参考文献 情報リテラシー入門編 よくわかる Word&Excel			単位認定の方法及び基準 授業態度・到達点まで達しているかどうか			

授業概要

科目名 《幼稚園免許取得コース》 幼児教育実習指導Ⅰ 《幼児教育実習Ⅰ》			形式 演習 《実習》	担当者名 吉野綾・豊田裕子 安原千香子	
回数 15回	時間数 30時間 《90時間》	単位数 2単位 《2単位》	開講学年 2年	期別 前期	必修・選択 選択 ※幼免必修
授業の目的・ねらい 2週間の幼稚園実習を核とし、幼稚園における幼児の活動と生活の実際を具体的に知る。1年次に学んだ保育の知識、技術を基盤として、幼児教育を実践する上で必要な専門知識・技術についての学びを深め、幼稚園の役割と幼稚園教諭の援助のあり方について考える。					
授業全体の内容の概要 幼稚園実習に必要な基礎知識を学ぶ。実習（Ⅰ）では“観察・参加実習”を中心とし、簡単な部分実習（パネルシアター等）について指導計画を立て実践する。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 幼稚園における幼児の生活と、幼稚園教諭の援助のあり方について基礎的な知識を学び、実践を通して理解する。幼稚園の保育内容に対して関心を深め、後期の学び・実践への意欲を持つ。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 幼稚園について①～制度と仕組み、現状と役割				
2	幼稚園について②～保育内容 実習前レポートの作成				
3	幼稚園について③～保育内容 実習前レポートの見直し				
4	学外オリエンテーション指導				
5	幼稚園見学・参加実習①				
6	幼稚園見学・参加実習②				
7	見学・参加実習の振り返り				
8	部分指導計画案について①				
9	部分指導計画案について②				
10	部分指導計画案について③				
11	学内オリエンテーション ※6/16（月）～6/27（金）実習				
12	実習報告と反省 ①				
13	実習報告と反省 ②				
14	幼稚園実習Ⅱに向けての計画 ※随時 個人面談				
15	幼稚園実習Ⅱに向け実習課題（指導計画）の設定と課題				
使用テキスト・参考文献 『実習の記録と指導案』ひかりのくに 厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館他、 随時参考資料を提示、配布する。			単位認定の方法及び基準 受講態度や意欲、提出物、実習施設の評価、 実習記録・レポート内容等に基づいて総合的に評価する。		

授業概要

科目名 《幼稚園免許取得コース》 幼児教育実習指導Ⅱ 《幼児教育実習Ⅱ》			形式 演習 《実習》	担当者名 吉野綾・豊田裕子 安原千香子	
回数 15 回	時間数 30 時間 《90 時間》	単位数 2 単位 《2 単位》	開講学年 2 年	期別 後期	必修・選択 選択 ※幼免必修
授業の目的・ねらい 2 週間の幼稚園実習を核とし、幼稚園における幼児教育についての学びを深める。前期に学んだ知識、技術を基盤として、幼児教育を実践する上で必要な専門知識・技術の内容を深め、幼稚園の役割と幼稚園教諭の援助のあり方について考察したことを基に、自分なりの考えを持つ。					
授業全体の内容の概要 前期に学んだ基礎知識や経験を基にして、個別に実習内容を計画し、工夫して準備を進め、実践する。部分実習や一日（半日）実習を体験し、振り返る。					
授業終了時の達成課題（到達目標） 幼稚園における幼児の生活と、幼稚園教諭の援助のあり方について学びを深め、自分なりに計画したことを実践する。さらに丁寧に振り返ることで保育者としての自身について新たな課題を持つ。					
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法					
1	オリエンテーション 実習前レポートの提出				
2	保育内容研究 ～部分指導計画案作成と演習				
3	「責任実習」について～一日指導計画案作成				
4	エピソード記録の書き方				
5	学内オリエンテーション ※10/20（月）～10/31（金）実習				
6	実習報告と反省				
7	保育内容研究 HOSEN フェスタ準備① ※随時、個人面談				
8	保育内容研究 HOSEN フェスタ準備②				
9	保育内容研究 HOSEN フェスタ準備③				
10	保育内容研究 HOSEN フェスタ準備④				
11	保育内容研究 HOSEN フェスタ実践①				
12	保育内容研究 HOSEN フェスタ実践②				
13	保育内容研究 HOSEN フェスタ振り返り				
14	行事について①				
15	行事について② まとめと今後に向けて～保育者としての課題				
使用テキスト・参考文献 『実習の記録と指導案』ひかりのくに 厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館他、 随時参考資料を提示、配布する。			単位認定の方法及び基準 受講態度や意欲、提出物、実習施設の評価、 実習記録・レポート内容等に基づいて総合的に評価する。		